

人体解剖学実習の意義について

医学生として医学を学ぶ上で、人間のからだの構造について理解することとは極めて重要なことです。医学を学ぶ際に講義や試験勉強を通して多くのことが身に付きますが、やはり実際に遺体を解剖して自分の目で見て観察するということはさらに深い理解へつながるということを実感しました。解剖学の参考書に載っていることが万人に共通するわけではなく、人間一人ひとりで全く同じ構造はありません。そのことを理解すると、将来医師として働くうえで患者に対する際にはその一人ひとりと向き合いそれぞれに合った治療をしていくことがいかに大切かということも強く感じました。

医学生として解剖実習を通して学ばせていただきましたが、これはそれに見合う以上の仕事をするることによって、献体してくださった方やそのご遺族の方に対して恩返ししなければならないと思います。これから講義や実習を通して少しずつ医師へと近づいていきます。医師という職業にゴールはありませんが、日々勉強し前に進み続けていかなければなりません。その中で、この実習がその第一歩目にあったことを忘れずにいたいです。

解剖実習を終えて

人体解剖の実習を終えて、この人体解剖の実習を振り返ってみると、非常に充実したものであったと思います。この人体解剖の実習を通して、普段の座学などでは学ぶことのできない多くの重要なことを学ぶことができたと思います。

人体解剖実習においては、教科書や図版に載っている人体の図と見比べながら遺体を解剖することによって、教科書の図と実際の人体の構造との共通点そして相違点を学ぶことができたと思います。人体の構造はすべてが教科書通りというわけではなく、多くの相違点を発見することができましたが、これらは実際に自分の手を動かして、多くの時間をかけながら丁寧に実習をやっていくことでしか学ぶことのできないものであったと思います。これらもひとえに、医学の教育発展のために献体をしてくださった方々がいるからこそできた貴重な経験であり、献体をしてくださった方々に対しては、感謝の気持ちが絶えません。本当にありがとうございました。

人体解剖学実習を終えて

まずは献体してくださった方とご遺族の方々に御礼申し上げたいと思います。私たちは普段の講義や議論を通じ、人体の構造を知識として得ることはできませんが、実際にその実物に触れ観察させて頂くことによって知識以上のものを学ぶことが出来ました。このような機会は大変貴重であり、将来私達が医師として現場に出たときに大変役立つものであると感じております。

解剖実習が始まる前には不安や緊張が大きく、この実習を通してしっかりと学習できるであろうかと心配していましたが、実際に実習を行う際には命の重みを感じながら人体の正常構造を学ばせて頂けたと感じています。

私達はこれからもさらに医学について学び続け、新たな事柄を学習していくわけですが、そのすべての基礎となるのがこの解剖学実習を通して学んだことであろうと確信しております。最後に改めてそのような機会を私達に与えて下さった献体してくださった方とご遺族の方々に、深い感謝を申し上げてこの文の結びとさせていただきます。

解剖実習を終えて

この度、解剖実習を無事終了することができたことについて、まず献体をしてくださった方々、またその遺族の皆様、ご尽力いただきました関係者のみなさま、先生方、共に学びをすすめた仲間たちに、こころより感謝申し上げます。

私は当初解剖実習にとっても不安を感じていました。ご献体いただいた大切なお身体を解剖させていただくことは、私のような若輩には過ぎることではないかと思ったからです。しかし実習の初日に初めて、ご献体くださった方のお身体を拝見した時、その方の手を見て私の考えは変わりました。その方は、きっと色濃く長い年月を乗り越えてこられたのだろう、優しげで重みのある手をなさっていました。献体してくださった方は、そのかけがえない生涯を生きぬき、そして亡くなってなお医学の発展のために大切なお身体をご献体くださったのだと思うと、そのこころの貴さに大きな感銘を受けました。未来の医療を担う我々は、この実習からできる限り多くのことを学ぶ責任があるのだと痛感いたしました。

この実習で学んだことを胸に、医療の未来に貢献できる立派な医師になることをお誓い申し上げます。改めまして、皆様本当にありがとうございます。ありがとうございました。

人体解剖学実習を終えて

まず、人体解剖学実習で献体してくださった方とその御遺族の方々に感謝の気持ちを述べたいと思います。本当にありがとうございました。

最初に解剖実習に臨んだ時は最後までやり通すことができるか不安な気持ちでいました。解剖実習室は地下一階にあり厳粛な雰囲気で緊張感をとても感じました。しかし、同時に他の同級生と協力して実習できること、そして自分達の教育や研究のために献体してくださった方々のことを考え、この緊張感を保ってできる限り最大限のことを実習の中で学んでいこうと決意することができました。実習を進めていくうちに、自分では想像がつかない発見をすることができ、講義だけでは理解できないことがたくさんあって、実習を通して初めて理解できることがあると思いました。実習の中では分からないことがたくさんありましたが、実習書を確認して、先生に質問したり、他のメンバーと質問しあって確実に解剖を進めることができましたと思います。

三ヶ月間の解剖実習は大変なものでしたが、その大変さを大いに上回るくらい多くのことを学び、感動を得ることができました。この経験を活かし、今後の医学の勉強にも励んでいきたいと思っています。

解剖学実習を終えて

初めに、私たち学生の教育のために献体をしてくださった方々、及びご遺族の皆様にご心より感謝申し上げます。

解剖学実習を通して、座学や教科書だけでは理解できない複雑な人体の構造について学ぶことができました。授業で学んだことを実際に自分の目で見て、確かめるということとても貴重な経験ができたことで、人体の構造への理解が深まりました。同時に、その発生や臨床的な意義にも興味を抱くようになりました。また、ご遺体の個人差や、疾患による構造の変化を見たことは、これから臨床の場に立つときに役立っていくと思います。

解剖を行い、人体に触れたことで自分が医師になるのだという実感、そして医学の未来を担う者としてより一層勉学に励まなければいけないという思いが強まりました。私たち学生のために献体をしてくださった方々の思いに応えることができるよう、立派な医師になるべく努力を続けていきたいと強く思いました。

最後に、医学教育のために献体をしてくださった方に重ねて感謝いたします。

解剖での学び

まずはじめに、献体してくださったお方と、そのご家族にお礼の言葉を申し上げたいと思います。

自分が医学部に入ったのは、医師という職業に魅了されたということが第一の理由であり、それゆえ、これまで医者という仕事を実際はどういったものなのか、ということにそれほど明確なイメージを持てずにいました。しかし、今回のこの解剖学実習で初めて、本物のご遺体を解剖することになり、その重みを肌で感じるようになりました。自分はまだ解剖学実習を終えたただけであり、医師の卵にすらなれていないような状態であるとは思いますが、医師である上で必要な心持ちというものを少し理解することができるようになったと思います。

今回の解剖学実習で経験したことは、これから医学生として学んでいく間、そして実際に医師として現場で患者の方々と接することができるようになってからも、心に残りつづけるような、とても大切な経験になったと思います。献体してくださった方々には感謝の気持ちで一杯です。本当にありがとうございました。

解剖を終えて

解剖をするにあたって最初は正直な話、御遺体がどのような状態であったように遺体を解剖するのかなど様々な不安がありました。献体して下さった方がどのような思いで献体をして下さったのかについても黙祷中に考えたりもしました。自分が解剖をする事が出来るのは医学部生であるからという事もありますが、やはりご遺体が無くては解剖はする事ができません。ご献体をして下さった方々には本当に感謝の気持ちしかないと思います。

また自分が献体するかという立場に置かれた時、自分なら献体をするのだろうかという気持ちも芽生えました。献体をして下さった方は将来の医学のため、現在の医学教育のために御自身の体を提供して下さったのだと推察しますが、いくら亡くなった状態とはいえ全く抵抗がなかったわけではないのではないかと思います。自分であれば躊躇する選択をしてくださった、ご遺体を提供して下さった方々に敬意を表したいと思います。

解剖実習感想文

約二ヶ月あまりにわたる解剖実習を通して多くのことを学ぶことができた。

解剖学的な知識はもちろんのこと、人体を客観的に見る力を養えたことは非常に有意義なことである。それまでは、人体の仕組み一つにしても、何か神秘的な物が背後にあるのではないかと心のどこかで思っていた。しかし実際にご遺体を解剖することでそこには綿密なネットワークが存在することを目の当たりにした。またそれと同時に、一人の人間の命の尊さを再確認することもできた。はじめにご遺体を目にした時に得られた緊張感はいまでも忘れることができない。その緊張感を常に維持しながら解剖に従事するという経験をしたことで、将来の医療現場において患者さんの命を預かっているのだという重い責任感を忘れずに持つことの実体験ができた。命の重みを感じながらも常に冷静な視点で人体に向き合う、一見相反した二つの心理的状态を併せ持つ、解剖実習ならではの経験だ。解剖実習の意義は、こうした医師の心構えを養うという点にあると考える。

最後に、今回ご自身の体を提供してくださった方に追悼と感謝の意を込めて解剖実習感想文とさせていただきます。

解剖実習を終えて

三か月にわたる解剖実習を今改めて振り返ってみると、初めて学ぶことが多く非常に充実した実習だったと感じています。解剖実習初日、初めてご遺体を目にした時の緊張感は今でもよく覚えています。自分がきちんと解剖できるのかと不安な気持ちでいっぱいでしたが、最後まで実習をやりきることができました。解剖実習を通じて、改めて人体の奥深さを実感しました。平面で見ると立体で見るとでは大きく異なっており、実際に人体を見ることが具体的なイメージを持つことができました。特に血管の走行や筋肉の位置関係などは、遺体を解剖して初めて理解することができました。教科書に載っているのとは違う部分も多くあり、実際に解剖してみないと分からないことがたくさんありました。また、今回の解剖で見つけることができなかった神経なども多くあり、人体への理解を深めるにはまだまだ勉強しなければならぬことがたくさんあると感じました。

このような貴重な経験ができたのも、全て献体にご協力してくださった方々のおかげです。献体してくださった方に、心から感謝致します。

解剖実習を終えて

解剖実習は、私達にとって大変有意義な時間になったと思います。そのような意義深い実習が、全国の医学部や歯学部において毎年実施できているのは、何よりも、献体して下さった方々のお陰だと、心から感じております。そのため、わたくしの感想に先んじて、献体して下さった方々へ深く感謝申し上げます。

さて、御遺体を解剖することで私達は多くを学ばせていただきました。座学だけでは到底身につかない、経験を通した、人体構造の成り立ちや仕組みに対する理解を、解剖を通して系統的かつ集中的に醸成出来たと感じております。そしてそれは、二年生から専門科目を学び始めた私達にとってかけがえのない糧となったことは間違いありません。医学は進歩し続け、覚えるべき知識、身につけるべき技術は増加し続けるでしょう。解剖を通して、私達は医学の基礎をしつかりと学び、定着させることができるわけで、これは昔から変わらないと思います。そのような機会を得ることが出来、私達は、献体して下さった方々への感謝の気持ちでいっぱいです。

解剖実習を通して学んだこと

医学部に入る三年ほど前、高校の先輩である医学生に、大学でどのようなことを学んでいるのかを伺う機会があった。その時はじめて「解剖実習」について知った。無知だった僕は「マウスとかの解剖ですか」という、あまりにとんちんかんな質問をした。そんな僕が今、医学部の二年生として、ご遺体にメスを入れ、たくさんのことを学ばせていただいた。

初回の実習でご遺体と初めて向き合ったとき、僕は少しひるんでしまった。自分よりもはるかに長い人生を歩まれ、献体に協力してくださった方のお身体にメスを入れるということが本当に許されるのだろうかという不安のためである。しかし、その不安こそがかつての僕には想像すらできなかった、医師になる者として欠かせない感情だと、解剖実習を終えた今では信じている。

人体解剖学の実習として、ヒトの身体の構造を学んだのはもちろんであるが、個人的にはそれ以上にいのちの「重み」をご遺体から学ぶことができた。他者のいのち、人生に対する畏敬の念という、容易には感じられない感情を教えてくださいました。ご遺体をしてくださった方、ご遺族の方々に、貴重な学びをさせていただいたことについて、強く感謝している。

解剖学実習を終えて得られたこと

正直最初は自分に解剖ができるのだろうか、という不安が大きくありました。ご遺体を見たことすらなかった私には無理なのではないかとも思いました。ですが、解剖実習が始まって、ご遺体と対面させていただいたときに、献体してくださった方がいらっしやつてこの実習は成り立っているのだから、誠意をもってこの実習に臨ませていただこうと気持ちを引きしめ、解剖させていただきました。献体して下さってありがとうございますと、毎回心の中で呟いてから、実習にあたりました。

解剖実習では実際のご遺体で組織や器官を確認することができ、教科書や図説を見たときにはなかなか覚えられない、見られない構造も、記憶に残しながら観察をすることができました。また、このような実習を通じて、改めて自分は将来医師として人の命に向き合っていくのだという自覚を高めることができました。

このような貴重な経験を積むことができたのは献体をしてくださった方のおかげです。本当にありがとうございます。そして、実際に解剖実習で見たことや学んだことをこれからも忘れずに医学を学び、将来医師になったら患者さんに質の高い治療という形で還元できたらと思っています。

解剖実習を終えて

医学部に入学して一年以上が経ちましたが、一年生の間は教養科目を学ぶ機会がほとんどで、医学生というよりも一人の大学生という認識が強かったです。学年が上がリ、基礎医学を学びはじめてようやく人体の仕組みを理解できました。教科書的な知識を習得することはもちろん大切です。しかし、それだけでは学べないこともたくさんあります。解剖実習では自分の知識と、実際に目で見て、手で触れることによって、人体の深い理解に繋がりました。

また、日々の勉強を中心とした疲弊した生活の中でも、献体してくださった方々の気持ちを考えることによって、医学生として自覚を持ち、将来医学者として大きく活躍しようという高いモチベーションを維持できました。

献体してくださった方々やそのご家族の皆さまにはあらためて感謝しております。今後自分の使命を全うすべく病に苦しむ人々を救えるような医療者としてどうすべきなのかを再確認する機会になりました。本当にありがとうございました。

解剖実習での発見

二年生になって五月から約三か月の間、解剖実習をしたことで人体がいかに複雑かつ精巧に作られているのかをこの眼と手で実感できました。解剖実習の初回からなかなか神経の根が見つからなかったりと苦難続きだったように思えます。特に後半の頭頸部の解剖では解剖が複雑で挫折しうになつてしまいました。

しかし、献体してくださった方の体を用いて勉強していると考えると、自分がいかに恵まれた環境にいるのかを再確認させられ、毎回の予習復習を怠つてはならないというモチベーションにもなりました。解剖実習は今の二年生の期間でしかできないことなので、自分としては一回一回を大切にして勉強できたのではないかと思っています。これから解剖で学んだ構造論などを臨床系の授業でも生かしてさらに勉学に励んでいく所存です。本当に献体してくださった方やその遺族の方々には感謝しかありません。

解剖実習を終えて

私は解剖実習を通して多くのことを得ることができました。

まず、ご遺体を解剖し実際に内部の構造を見てそれに手を触れることで人体についての理解を進めることができました。私は神経がどのようなものか分かっていなかったのですが、たくさんの神経線維が中枢から末梢まで伸びている様子を実際に見て神経についての理解が進みました。このような理解は教科書や講義からだけでは得られないものです。生命が宿っていたご遺体を前にして自然と緊張を感じている状況だからこそ、ご遺体から可能な限り多くのことを学ぼうという意識が芽生えたのだと思います。

また、知識の重要性をひしひしと感じました。解剖実習という貴重な機会を最大限に生かすために予習を欠かさずしてから実習に臨みましたが、実習中に私の目の前に現れる様々な構造の中には理解が難しいものも多く、もっと勉強してから臨めばよかったと悔やむことがありました。今後はこの実習で学んだことを土台にして勉学に励みたいです。

最後に、私たち学生の学習のために献体をしてくださった方とご遺族の方に深く感謝します。献体してくださった方とご遺族の方の思いを胸に一層努力を続けてまいります。

人体解剖学実習を終えて

人体解剖学実習が始まる前の私には、医学的な好奇心よりも不安のほうがかかなり大きかった。医学科一年生ではカエル、ラットしか解剖していないのにもかかわらず、カリキュラムでわかっていたことではあるが、人体を解剖することになると、やはり恐怖心はあった。しかし、実際に献体してくださった方を前にすると、徐々に不安が医学的な好奇心へと変わっていった。

実習が始まったばかりの頃は、遺体を解剖することは手順書の通りにやっっていけばうまくいく、簡単なものだという認識だった。しかし、実際に遺体を解剖してみると、教科書に描かれているものとはかなり異なる構造が広がっていた。体の構造は様々で、実際の手術の難しさを想像させられた。この後の医学の学習への態度のあるべき姿、そして医師になるものとしての責任を感じた。

人体解剖学実習では、座学だけでは、学べない多くのことを学んだ。このような貴重な機会を与えてくださった、献体をしてくださった方、遺族の方、献体の会の方々に心から感謝し、これからの学びにより一層力を入れていきたいと思う。

解剖実習を終えて

医学教育・研究のために献体くださった方、ご遺族の方に感謝申し上げます。教科書や講義で示される画像での理解は断片的なものであり、臓器や筋肉などの大きさや重さ、立体的な構造、神経・血管の走行などを総合的に理解することは実習がなければ非常に困難であったと思います。まだ医学を学び始めたばかりであり、実習の準備や理解に時間がかかりましたが、その分だけ有意義な時間でありました。

今後さらに広く、そして深く医学を学んでいくことになりますが、医学生の早い時期にこのような経験を行うことができたことは、学習の助けとなるだけでなく、医学を学ぶモチベーションを高く維持させてくれると思います。特に、解剖実習を通じて経験した人体のリアルな感覚は、「医学は人のためにあり、人によって支えられている」ということと共に深く心に刻み込まれました。医学に携わる者としてこの感覚を忘れず、真摯な態度で日々勉強していかねばならないと感じました。貴重な経験をさせていただく機会を与えてくださった方々に重ねて感謝申し上げます。

解剖を行ったことによる変化

医学科に進むことを考えてから、いつか行うのだ、と緊張して待っていた解剖を行った日々は学ぶことが数えきれず、非常に充実した日々でした。机のうえで絵を眺めたり、講義で「これがここにあるんだ」ということを聞くだけでは実感できなかったことが、目の前に広がり、今後の人生で活かされ続ける学びとなりました。

また、解剖を行ったことにより、気持ちの変化も大きいものでした。生身の人に向かいあう医師になるんだといった認識は、ご遺体と向きあうこの経験によって実感をともなうものとなりました。人の命を預かるという職業であり、失敗が許されないということを改めて気づかされることで、今後も一層学習に努めなくてはいけないと感じています。

このように私に知識面でも、意識面でも影響を与えるようなかけがえない経験を与えてくださった、献体してくださった方々に感謝の気持ちでいっぱいです。献体することで私たちに託してくださった期待に応えられるよう努めたいと思います。

解剖実習を通して

私は初めは解剖に対して、自分にできるだろうかという精神面や肉体面の不安がありました。しかし、医学部に入らないとできない経験であり、本当に貴重な事なので精一杯頑張ろうと思い授業に臨みました。

実習が始まると、ご献体を実際に目の前にして気が引きしまり、授業で学んだ人体の構造についての理解が深められたと思います。授業で教わった構造が見つかる興味深く思いしつかり観察しました。また、自分ではしつかり予習していったつもりでも新しい発見があり、人体の奥の深さを感じさせていただきました。さらに、解剖が成り立つのも、ご遺体を提供してくださった方々がいるからこそなので、毎回の授業前に行う黙祷や、最後の納棺では、精一杯感謝の気持ちを伝えしました。

本当に貴重な経験をさせていただいたと思い、献体してくださった方やそのご遺族に深く感謝しています。これからも、良き医者になるために今回学ばせていただいたことを生かして勉強を重ねていきたいと思っています。

解剖実習を終えて

はじめてご遺体と対面した時、非常に緊張するとともに、罪悪感に近い感情が湧き上がってきました。この方は自分自身の人生を歩んできたのに、赤の他人である私たち学生がご遺体に干渉してもいいのだろうか…。しかしこのように命の尊さを認識できたからこそ、今回の解剖実習のような貴重な機会を十分に活かし、医師になるにあたって必要な知識を身につけたいと決意を固めることができました。これまでに行ってきた実習とは異なり、解剖実習は実習書通りに進まないことが多かったです。神経や動脈の位置が実習書と全く異なることが多々あり、理解しながら進めていくのに非常に苦劳しました。そこから、人間は一人一人異なり、個人を型にはめて考えることはできないのだと痛感しました。

医師になった際に、今回の実習によって得られた人体解剖学の知識を活かしていくだけでなく、各個人と接する際にはどのようにすべきかという技術も合わせて自分の持ち味にすることができるよう努力していきたいです。

解剖実習を通して

なぜ解剖をしなければならないのか。授業が始まる前は、そんなことを思っていたこともあった。医師を志しているものの、これまで身内の不幸に遭ったことがなく、血も苦手な自分にとって、解剖という授業は未知であった。また、もし怖くてできなかったり倒れてしまったりしたら、医師に向いていないという現実を突きつけられるのではないかと、授業開始が近づくにつれて不安が大きくなっていった。

しかし、解剖を続け、その不安は医師をめざす覚悟へと変わった。変えてくれたのは、献体してくださった方々の存在である。献体してくださった方々が私たち医学生に託した思い、願いを受けて、遺体を解剖する私たちがなすべきことは何かを考え続けた。また、身体の構造だけでなく、個人差や変異、手術痕などを実際に見ることができたのも貴重な経験であった。これからも勉強を重ねていくが、解剖を通して得た知識、そして医学を志す私たちに託された多くの思いを決して忘れることのないよう、心にとどめつづけたい。

人体解剖実習を終えて。

私は今回の人体解剖学実習を通して大変貴重な経験をさせて頂いたと感じました。実習より先にまず私たちは授業で、紙の上で人体の構造について学びました。その時には自分が医師になって医療に従事することになるイメージが全然湧いていませんでした。ところが人体解剖実習を約二ヶ月かけて行ったことで今までの考えがガラッと変わりました。初日に遺体を拝見してから自分は実際にこれから人の命に関わる仕事をしていくのだと強く感じ、それはとても生半可では済まされない覚悟が必要であると身にしみて感じました。また同時に人間の命は紙の上だけではとても知り尽くすことができないとても奥深いものであることも知りました。このような貴重な体験をさせていただいたことはとてもありがたく、献体してくださった方には感謝してもしきれません。この人体解剖実習を通じて学んだことはしっかりと胸に刻まれ、必ず今後の人生に役立てていけるものと確信しています。本当にありがとうございます。

解剖によって学んだ医者 の責務

まず初めに、献体してくださった方と遺族の方に、解剖という大事な機会を与えて下さったことを感謝します。医学部に入っすぐは、解剖をやるのはひとつの過程であり、大きな意味を持たないと考えていました。しかし、実際目の前にし、献体して下さった方の人生に思いを巡らせ、医学生のために献体することがどれほど大きな決断であつたかを実感しました。そして、その思いに応えるため、できる限りを尽くして丁寧に解剖をし、自分の知識を定着させることに尽力しました。解剖によって、教科書ではない遺体を見て、違いや特徴を深く学ぶことが出来ました。アクティブラーニングによって、医学を学ぶ楽しさに気づきました。そして、最も大事なことです、遺体に触れる、メスを入れる、という特殊な仕事が出来来る医者には、それに見合う倫理観、知識が必要だとは感じました。私達にはそれほどの権限が与えられており、正しく行使しなければならぬ、と。まだまだ未熟ですが、これからより学問に励み、素晴らしい医者になろう、そう決意の出来る解剖となりました。本当にありがとうございます。

人体解剖学実習を終えて

解剖実習という一生に一度しかない大きな体験をさせていただき、ありがとうございました。はじめの数回は、ご遺体にメスを入れることに躊躇があり、作業の進みが遅かったです。しかし実習の回を追うごとに、躊躇をしている場合ではなく、ご遺体から多くのものを学び取ろうという決意が強くなりました。そのような決意のもと解剖実習を行う中で、将来医師になる者としての自覚を新たにしました。

解剖実習の前に、座学で先生の話の聞いたり、教科書の図を見たりして人体の構造をつかむ準備をしました。しかし、実際に解剖して観察してみると、教科書に載っているものとは異なる構造になっていることがよくあり、毎回が新鮮な体験でした。人体の複雑さ、奥深さを実感しました。また、実際にご遺体を自分で手を動かして解剖し、自分の目で観察することで、見たものが頭の中に刻みこまれ、大変深い学習ができたと思います。

献体してくださった方々に深く感謝いたします。三か月間の解剖実習を通して、非常に貴重な経験をすることができました。立派な医師になって社会に少しでも恩返しができるよう、これからも努力を続けていきます。

解剖学実習を終えて

解剖学実習で実際に人体の構造を確認することはかけがえのない経験でした。教科書でも人体解剖図のイラストを見ることはできますが、それはかなり簡略化されているものが多く、筋肉や神経の走行は実際に観察すると想像と違うことが何度もありました。また、体の内部の構造が人によって異なることも分かり、人体の複雑さを実感しました。しかしこの実習の経験は知識を身に付けるということだけでなく、これから自分が人の体に触れ、治療する医者になるのだという実感、そして覚悟を得るものでもあったと思います。

実習の初回で初めてご遺体と向き合った時、緊張とともに思い責任を感じました。「これから自分は人の命を背負うのだ」という責任感です。解剖実習とはいえ一人の人の体を預かるという点には変わりはありません。この気持ちを常に忘れずにこれからの学習につなげていきたいです。

このような貴重な経験も献体してくださった方や家族の方々の協力があったからできたものであり、本当に感謝しています。ありがとうございました。

解剖実習を終えて

私が解剖実習を経て最も肌で実感したことは人間の体は個人によって実に多様であるということだ。これは当たり前のことではあるが、教科書の図のみに頼った学習をするだけでは忘れがちになってしまうことである。

事実私たちの班のご遺体と他の班のご遺体、教科書とでは場所、位置関係、吻合の仕方など含めて一致する構造の方がむしろ少なかった。しかしそんな多様にも関わらず観察すればそれぞれの器官はしっかり機能していることはわかったし、発生の観点から見ればご遺体に共通する成り立ちの仕組みがあることも授業からの知識も活かすことで見て取ることができた。このような体験を通して今まで漠然としていた人体のイメージを実感として得ることができたと感じることで、とても有意義な時間を過ごすことができた。

最後にこのようなまだ医師になっていない身としてはなかなか得られない大変貴重な経験の場を与えてくださった、献体してくださった方、そのご遺族、また献体の会の会員の皆様に心から感謝を述べたいと思う。

解剖学実習を通して

この度の解剖学実習のため、献体してくださった方、遺族の方々、献体の会の会員の方々に深く感謝申し上げます。

初めて、ご遺体と対面したときに感じた緊張は大変大きなものでした。それと同時に、今回の実習を非常に有意義なものという気持ちもわいてきました。緊張も実習を重ねることで、少しは和らいでくるだろうと思っていました。ご遺体のそばに立ち、黙とうをすると緊張感はしつかり戻ってくるものでした。しかし、それは献体してくださった方の期待を裏切ってはならないという緊張で、終始引き締まった気持ちで実習に臨むことができました。いい緊張感のなかでの学びは、非常に価値のあるものでした。午前の座学で学んだことを、午後の実習を通してより理解を深めることができました。

このように解剖学実習は二度とない大変貴重な機会で、真摯に取り組み、非常に多くのことを学ぶことができました。ここで得た知識を、これから医学の勉強に大いに役立てていきたいと思えます。私たちの解剖学実習をささえてくださる多くの方々に感謝申し上げます。

解剖実習を終えて

五月に始まり、二ヶ月に渡る解剖実習が終了しました。最初ご遺体を見たときの厳かな気持ちは今でも忘れません。講義とともに実習が進むにつれて、教科書に出てきた通りに構造が分かったり、逆に稀少な特徴を見つけたりしたときは人の神秘さに感動しました。これらの構造が献体してくださった方の人生で機能し続けており、今現在自分の体で機能していると思うと、時間の流れに畏れ多い気持ちになりました。このような学習ができるのは、献体してくださった方やそのご遺族の善意があつてこそです。ありがとうございます。

これからは、実際のご遺体で構造を確認するということはありませんが、今回の学習をもとに、様々な分野に活かしていきたいと思います。解剖学は医学の基礎であり、実際に目で見て手を動かして学べたことは確実に実になったと思います。とても貴重な学習機会をいただけたことに改めて感謝を申し上げます。ありがとうございます。

医学の面白さを体感した実習

私はこれまで生物学科で学び、生物の持つシステムの不思議、精巧さに惹かれてきました。その中で自分自身であるヒトについて学びたいと思い、医学部に編入しました。これまでもカエルや豚、魚などの解剖は経験したが、人体の解剖は初めてでした。解剖室に初めて入り、ご遺体にかかったシートをめくる瞬間は非常に緊張しました。献体してくださった方の顔を見たとき、この方にも人生があって御家族がいらっしゃることを想像してその方達のお気持ちも考え献体してくださったことに感謝の気持ちでいっぱいになりました。実際に解剖を始めて教科書で見たものが現れてきました。学んだ構造が実際ある驚きとともに教科書とは何か違う部分も多くあり、もっと勉強すればその形態からその方の人生なんかも見えたりするのかなと思いました。一番苦労したのは神経を探すことでした。非常に複雑に走行する神経のつながりを探すのは大変であるとともに意外な場所のつながりがわかり科学的な面白さを感じました。この正常解剖で学んだことをしっかり記憶してこれからの学びに生かしていきたいです。

解剖実習を終えて

この数ヶ月間の解剖実習はとても実りのあるものであった。まず、教科書や講義だけでは理解できない知識を得たことは大きかった。例えば神経や血管、筋肉の立体的な位置関係は平面的な教科書では記述に限界があり、学習者としても理解が難しい。実際にご遺体を解剖することで正確な位置関係を学べたと同時に、記憶にも残すことができた。

また、この解剖を通して、人体がいかにもろいものであるかを痛感した。傷害が起こると人体全体に大きな悪影響が起こるという場所が何箇所も観察された。ある一箇所を傷つけてしまうだけでひとりの命を奪えてしまう医療の怖さを感じた。実際の医療現場で生きた患者さんを相手にする際に決して傷つけてはいけない部分を把握することができた。

ご遺体を通して学ぶというこのような貴重な体験は私にとってかけがえのないものであった。解剖実習で得た感動や知識を心に刻み、将来の医療に貢献する上で活かしていきたい。

献体に協力してくださった方、そしてご遺族の皆様には感謝したいと思う。

解剖学実習で得たもの

先輩方から、難しいながらも最もやりがいがあり深い学びが得られると伺っていたのがこの解剖学実習でした。実際、座学で学んだ内容を自らの手で遺体を解剖することで、教科書だけではわからない立体的な位置関係や人体の構造の複雑さをリアルに体感することが出来ました。また、他の班との比較で男女差や個人差を詳しく見ることが出来ました。これらの学びはどれも献体してくださった方々がいなければ得ることのできない貴重なものです。

そして、この実習では人体を深く学ぶと同時に医療関係者として人の命と向き合っていく覚悟も芽生えました。私が現在学んでいる医学というものは、先人たちの努力や献体してくださった方々を始めとする多くの人の協力の上に成り立っているものであることを改めて実感しました。その方々への感謝を忘れることなく、意志を無駄にすることのないように私は今後とも勉強を続け、将来の医学の発展や患者さん達の幸せに貢献していきます。

最後になりますが、ご献体していただき、実りある実習が出来ました。心から感謝申し上げます。

解剖で得られた貴重な経験

春から約三ヶ月間、解剖実習があり、それは医学部生としても、そして、一人の人間としても、大変貴重な経験となりました。

解剖する前には必ず黙祷の時間があり、献体してくださった方、そしてそれに同意し協力してくださったご遺族の方への感謝の意を心の中で述べていました。そして、今日も最大限学ぶぞ、という気持ちを確認して、実習を始めるようにしていました。実際に自分の目で人の身体を見ることができたことで、大変強く記憶に残りながら、解剖学を学ぶことができたように思います。また、解剖実習が始まった春からと、それ以前では、人間の身体に対する知識が圧倒的に増えたというのはもちろんですが、その尊厳についても、改めて深く感じるようになりました。ご本人の意思で、医学の発展のためにご遺体が無償で提供してくださったこと、その覚悟を考えると、その都度改めて気が引き締まりました。

献体してくださった方、そしてご遺族に、心より御礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

解剖実習を終えて

解剖実習が始まるまで、自分にご遺体と真摯に向き合うことができるのかどうか、一抹の不安を感じていました。しかし実際に実習が始まってみると、予想していたほどの不安に襲われることはなく集中して臨むことができ、講義や教科書で理解したと思っていたものが、はるかに直接的な経験として理解することができました。人間は皆完全に同じ構造をしていると思っていました、教科書に書かれているようなそれは必ずしも絶対のものではなく、一人一人違うことや、生命が極めて繊細に成り立っているのだということを認識できました。解剖実習を通して、生命の尊さ、複雑さを実感しました。ご遺体を解剖させていただき、自分の五感を通して勉強するという経験は誰もができることではありません。この経験はこれからの医学の学習において大きな助けとなると思っています。

最後になりましたが、献体してくださった方々、並びにご遺族の方々に心より感謝申し上げます。これからも日々努力を重ね、社会に医学の立場から貢献できるよう励んでいきます。

医学生として

解剖実習は医学生になって最初に訪れる実習の一つであり、実際に自分たちの手で人を解剖するという点でその価値と経験は非常に大きいものであると感じています。

今回の解剖実習では、皮膚はもちろんのこと、筋肉や骨、臓器といった普段書籍を通してでしか見ることでできないものを自分たちの手で剖出し、その構造や組織を十分に学習することができました。また、自らの手で遺体を解剖することによって、講義では気付くことのできなかった細かいことや、臓器の立体的なつくりといった筆記的な学習では理解しづらかったことなどの大変多くのことを知識として蓄えることができたと感じています。

そして、人形や模型ではない実際のご遺体を用いて実習を行うことにより、人体の構造だけではなく、人の命を扱うという医師の原則も感じることができたと考えています。

知識を身につけ、自身の今後の学習に対する姿勢について思慮を巡らせる大変貴重な経験であったと感じます。

人体解剖学実習を通して学んだこと

はじめに、献体してくださった方とご遺族の方々に深く感謝を申し上げます。

解剖学実習初日、ご遺体と対面した時には何とも形容しがたい緊張感と不安を感じたのを思い出します。実習のために献体してくださった方に恥じないような解剖が出来るよう、毎回きちんと予習をして真剣に取り組むことが我々の使命だと感じました。

座学や予習を通して学んだ教科書上の平面的な構造を、実習を通じて立体的に把握できるようになりました。また、筋肉の形状、神経の走行、血管の枝分かれは必ずしも教科書通りではないことが理解できました。時には、見るべき構造がなかなか見つからなかったこともあり、人体の複雑さや奥深さを感じました。

今実習を終えて思うことは、実際に医療を行うにあたっては、個々人の体の構造をきちんと把握することが重要だということです。全員が教科書通りの体を持っていないということは、手術等を行う時に注意しなければならぬこともまた教科書通りではないと思いました。

最後に、我々に非常に貴重な経験をさせてくださった方々に改めて感謝をするとともに、今後もより一層勉学に励み、社会貢献できる医師になりたいと思います。

解剖実習を通して学んだこと

解剖実習では、三ヶ月という短い期間の中で多くのことを学ぶことができました。それまで講義や教科書の中でしか見ることでできなかった器官を実際に立体的に観察することや、器官どうしのつながりをより正確に理解することができました。この実習を通して得た経験は必ず今後の学習や医師としての仕事の役に立つものと思います。

また、解剖実習はかなりの体力が要求される大変な実習でしたが、班員と力を合わせることで実習を進めていくことができました。この経験は、将来他の医療関係者たちとともにチーム医療を行っていくことにつながるはずです。

この解剖実習は班員や先生方、そして献体してくださった方々のおかげで行うことができました。班員は困った時に作業を手伝ってくれましたし、先生方は適切なタイミングでアドバイスを下さいました。そして献体してくださった方々のおかげで医学の知識をより生きたものにすることができました。ありがとうございました。この機会を与えてくださった全ての人への感謝を忘れずに、今後さらなる研鑽を積んでいくつもりです。

教科書からでは学べないこと

人体解剖学実習を終えて、実際に人の身体はどのように出来ているのだ、ということの詳細に学ぶことが出来ました。献体して下さった方、深く感謝致します。人体解剖学を座学で学んでいた時には、人間の身体づくりを学習していても、「なるほど、そうなんだ」という時点で止まってしまいます。教科書の図しか実際に参照するものがないからです。しかし実習において、実際に学習したつくりを目の当たりにすると、教科書の図からは得られない、より深い理解が得られたように感じました。医師は患者さんを診る職業であるため、人体に対しての理解は教科書のみから学んだだけの浅いものではなく、より深い理解に基づくべきであると思います。そのような深い理解をすることが出来たのも、ひとえに献体して下さった方の御陰であると思います。

ここで得た知識をしっかりと身につけ、これから先も十分な学習をし、より良い医師になれるように精進したいと思います。

解剖実習を終えて

僕は人体解剖学実習を通して、とても貴重な経験が出来たと思っています。人体解剖は医学や歯学を志さなければ絶対に経験しなかったことであり、このような貴重な経験をさせて頂けたことはとてもありがたいです。献体してくださった方々やそのご家族の方々にはとても感謝しています。約三ヶ月に渡る解剖実習を通して学んだことはたくさんありますが、一番は人体がどれほど複雑に出来ているかということがわかったことです。手を動かす等の単純に見える行為にも、様々な筋肉や神経などが関わり合っていて機能していることが、ご遺体を解剖していくうちにわかりました。そのような複雑さの上に、日々生活をして、生きているということがとても素晴らしいことなのだとわかったような気がします。

まだ医学部生活は長いですが、これからもこの気持ちを忘れないようにしたいと思っています。将来どんな医者になるか分かりませんが、人体解剖の経験を糧に立派な医者になればと思います。献体してくださった方々、そのご家族の方々、本当にありがとうございました。

解剖学実習を終えて

解剖学実習では、他では得がたい大変貴重な経験をさせていただきました。

五月から週三回の実習を約三か月間行いました。「正常」の範囲にも個人差が存在すること、血管や神経、臓器の立体的な位置関係、人の体の重さなど、教科書や講義からだけでは学ぶことのできない多くのことを体得することができました。同時に、医学というのは常に人と向き合うものであるということを強く感じました。はじめてご遺体を前にしたときは緊張し、また、その方の送ってこられた人生に思いを馳せると、人と関わる医師という仕事の難しさと責任を感じました。

現代はデジタル媒体が進化しており、ご遺体によらなくても、様々なシミュレーションツールによって人体解剖を学ぶことができるようになりました。しかし、ご献体と向き合うことによって感じた複雑な想いは他の経験では代えがたく、このような機会をいただけたことで医学を学ぶものとして精神的にも成長できたように思います。

最後になりましたが、献体をしてくださった全ての方、またご家族の方に、このような大変貴重な機会をいただきましたことを心から感謝申し上げます。

人体解剖実習を終えて

まず最初に献体してくださった方々、ご遺族の方々に、解剖実習という貴重な機会を与えていただいたことに深く感謝申し上げます。

解剖実習を通して私は多くのことを学ばせていただきました。解剖実習を行うことで座学では学ぶことのできない立体的な臓器や構造の配置を見させていただき、より一層理解を深めることが出来ました。さらに、講義や教科書から得られる人体の構造の知識と解剖実習を通して得た知見は異なることが多く、教科書通りの構造をしていることはないこと、また人間の性質と同じく人体の構造も人により差異があるということに改めて感動しました。

また、実習を重ねるごとに医学の知識のみならず、我々は献体してくださった方々、ご遺族の方々を始めとして多くの方々のご厚意、ご協力を得て医学を勉強させていただいているということを実感しました。医療者となるための責任を感じるとともに、医師となるために何をすべきか改めて考え直す機会ともなりました。

今回の解剖実習で得た知識や経験を忘れることなく、この貴重な機会から得たことを還元できるように今後の医学の勉強に日々精進していきたいと思います。

解剖実習を終えて

解剖を行う前、文献で図や文章でのみ見たことがあり、あくまでも自分の頭の中での想像のものでしかなかった身体内部の構造を初めて目にしたとき、強い衝撃を受けた。抽象的に思っていた構造が次々と具体的に現れてきて、体内の機能などがどのような流れで起こっているかを、発生学的な観点も含め実感することができた。

また、教科書にはあくまで一般的な身体の構造しか書かれていなかったが、実際のご遺体では、想像以上に個人差が大きく、それは将来的に臨床などの場に出た時にも同じことが言えるのではないかと感じた。そして、身体の細かさや繊細さにも目を見張るものがあつた。特に頭頸部の解剖においては、狭い範囲に重要かつ繊細な器官が集まっていて、思っていた以上に小さなスケールで重要な機能を担っていることを見て感じることもできた。

このように、ご遺体を解剖させていただいたことで初めて知ったことも多くあり、なによりも実際に目にすることで、漠然としていた内部の構造を具体的に感じることもできたことに本当に感動した。献体してくださった方、ならびにご遺族の方々には感謝してもしきれないだろうと感じた。ありがとうございました。

ご遺族の方々並びに献体の会の会員の皆様へ

ご遺族の方々献体の会の会員の皆様、そして献体をしてくださった方、今回は解剖実習にご協力していただき、ありがとうございました。おかげさまで医学生としての経験値が上がり、医師への道をまた一歩前進することができました。

私たちの班では、ご遺体の解剖を丁寧に進めることができたため、人体のいろいろな構造や部位を視覚的に理解することができました。本実習が始まる前までは、医学について基本的に座学でのみ学んでおりました。そのため、医学に対する知識は増えましたが、具体的なイメージが付きにくくただただ暗記するだけになっており、医学に対する勉強のモチベーションが下がっている時期もありました。

しかしこの解剖実習を通して、今まで想像できなかった構造や、理解が乏しかった機能を、目で見て捉えることができました。スライドや書籍では、イラストをどうしても二次元でしか表現できませんが、それを三次元として学ぶことができた本実習は、自分の人生のなかでも大きなものになりました。これも全て皆様のご協力があつてこそです。本当にありがとうございました。

責任と感謝

初めて献体してくださった方と対面したときに、姿は緑のシートで覆われていて見えなかったが、とても神秘的な気持ちになった。私は、その神秘的な気持ちと共に黙とうをささげた。そして、いざ解剖が始まり、シートを開けた瞬間の気持ちは一生忘れることがないだろう。言葉にするには難しいが、しようと試みるのなら、多分責任という言葉だと思われる。しかも重責だ。

二か月という期間も経て遺体を解剖することにより、私は人体の構造について教科書の二次元的な解説では理解が浅いところをさらに深めることができたり、はたまた教科書が嘘を含んでおりで実際に解剖してみても、実際に解剖にはこうなっていると分かったりということもあった。

医師になるうえで、人体の構造について詳しく知っているのは当然である。その機会を今回ただけて非常に感謝している。これから医師になるために様々な勉強をするだろうが、今回の解剖で感じた責任と感謝を忘れずにこれから勉学に励み、医師として活躍したい。

解剖実習を通して感じたこと

解剖実習を始めるにあたって、献体してくださった方を目の前にした時、身の引き締まる思いがしました。献体してくださった方には、それぞれの人生があり、大切に思っている遺族の方がいらつしやいます。その方達を、医学の学習のために、隅から隅まで解剖させていただくのが私たちです。解剖実習前にもその事実は分かっていたはいましたが、それに伴う責任と恐怖心とをはつきりと、対面した時に感じました。毎回の解剖実習前には、必ず黙祷が捧げられます。その時間に、私はいつも、この解剖実習初回に感じたものを心の中で反芻し、献体してくださった方と遺族の方への感謝を祈らせていただきました。解剖実習の回を追うごとに、人体の構造の理解が深まっていきました。筋肉の起始と停止、神経や血管の走行、各臓器の構造等を班員と協議しながら、正確に把握することに努めました。将来医師になる上で、必ず生かしていきたいと思います。

再度になりますが、献体をしてくださったことに深く感謝しています。そして、献体してくださった方が、安らかに眠りにつけるようにお祈り申し上げます。

解剖実習を通じて

この度献体をしてくださった方とご家族の方のご厚意に心より感謝申し上げます。ありがとうございます。

教養部から医学部に移り専門科目を学び始めた我々二年生にとって、この解剖実習には非常に大きな意味がありました。

まず解剖実習を通じて自分の目で見て触れることで、教科書で学ぶだけでは理解できなかったことや想像もできなかったことをしっかりと頭に刻むことができました。人体の構造と機能が如何に精巧であり、命があることが如何に奇跡的なことであるかということにこの上なく感動させられました。

それと並んで、まだ医師でもない我々が、初めて人間の命という崇高なものにかかわらせて頂いたことで、医療者を志すものとしての第一歩を踏み出すことができたと感じております。人間の命の偉大さとそれに関わる医師の責任の重大さを改めて感じ、献体をしてくださった方への感謝を胸に留めながら、この恩返しをできるよう研鑽を積んでいきます。

改めて感謝をさせていただきます。ありがとうございました。

解剖実習を終えて

まず初めに、私たちの実習のために献体をしてくださった方とそのご家族の皆様、心から感謝を申し上げます。二か月の実習を終えた今、振り返ると、初回の実習で初めてご遺体を目にした時の緊張感が思い出されます。目の前に横たわった方が生前歩んでこられた生に思いを馳せ、人の命というものを目の当たりにしたような気持ちでした。

実習では、授業で学んだ構造を実際に自分の目で確かめていく中で、人体の構造に対する理解が深まりました。教科書で見たものを本物の人体で見ると感動は、決して机の上の勉強だけでは得られない貴重なものでした。医師になるにあたり人の正常な構造を実物で観察することは絶対に欠かすことのできない重要な過程であり、そのような機会を与えてくださった皆様には感謝の気持ちでいっぱいです。

これから先もまだまだ医学の勉強は続きますが、私たちの医学教育のために献体をしてくださった方の思いにこたえられるよう、精一杯努力していきたいと思います。そして将来は、知識・技術を十分身につけるだけでなく、患者さんに安心感を与え、その人生に良くなかわっていけるような、そんな医師になりたいと思います。

解剖学実習を通して感じたこと

解剖学実習のために献体してくださった方々、ご遺族の方々、献体の会の方々、そして、私たちにこの実習の機会を下さったすべての方々に心から感謝を申し上げます。ありがとうございました。

私は解剖学実習が始まる前、未熟な私が解剖をさせていただいていいのかと、大きな不安な気持ちを抱いていました。そして、ご遺体を目の前にした瞬間に走った緊張感から、この実習を最大限に有意義なものにしようと思ひ、予習や授業に集中して取り組みながら、毎時間自分の中で目標を立てて解剖をさせていただいておりました。

その中で、血管の分岐が教科書とは異なっている等、座学では理解しきれない多くのことを実習で学ぶことが出来ました。そのような発見を通して、自分の想像以上に人体は複雑な構造をしており、こうして今生きていることがどれだけ奇跡的なことなのかを心から感じるようになりました。それと同時に、自分はそんな命と接する医師になるのだという責任感と身の引き締まるような思いも抱きました。これから一人でも多くの命を救える医師になれるよう、そのための努力を惜しまずに勉学に励んでいきたいと思っております。ありがとうございました。

人体への深い感動

実際の遺体を解剖させて頂くという体験は、これから医師になる道を歩んでいく私にとって、学ばなくてはいけない課題の重さの再実感、そしてその責任を強く感じさせてくれる体験でした。

事前に、人体解剖について図鑑などを用いて学んでおりましたが、実際解剖してみると、図鑑の通りに人間は本当に奇跡のように精密な仕組みでできているということがわかり、感動しました。それと同時に、それぞれによって大きく異なる箇所も複数持つということを知り、驚きました。この精密な人体というものを扱う職業につくということは、それに匹敵する細かく確かな知識・技術を身につけなくてはならないということを強く感じました。また、この繊細さにも関わらず個体差をもつて人間が存在しているという事実自体への深い感動を覚えました。

医学を学んでいても、このように直接学べる時間は貴重であり、遺体と向き合った時の難しさ、緊張というものは忘れられるものではありません。今回のこの貴重な解剖という機会で学んだことを基礎とし、献体してくださった方々への深い感謝・人体への感動を胸に、今後の学習をしっかりと進めていきたいと思えます。

解剖実習を終えて

解剖実習の授業が始まる前、私は非常に緊張し、不安も感じていた。自分にご遺体の前に立ったらどのような気持ちになるのかが分からず、心の準備がなかなか出来なかったからである。実際にご遺体を目の当たりにすると、緊張感も感じつつ、同時に自分たちが献体してくださった方に失礼のないように解剖を行わなければならないという責任感も感じた。

解剖実習を進めていく中で、本実習の重要性について感じるが多々あった。まず、私たちが普段教科書や授業などで学んでいることを深く理解するためには、本実習は不可欠であった。教科書などで学ぶだけでは浅薄な知識しか得られないが、実習を行うことによって、得てきた知識に対する理解が深まり、より厚みのあるものに変わっていくという実感が得られた。また、教科書に記載されていることとは異なることも多くあり、本実習でしか学べない事柄も非常に多く学ぶことができた。

最後に、我々医学生のために献体してくださった方やご遺族の方に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

解剖実習を通して学んだこと

初めに、私たち医学生 of 学びのために、献体をしてくださった方と、そ
のご遺族に厚く感謝致します。

解剖実習をする前は、教科書や模型などでも十分学べるのではないかと
思うこともありましたが、しかし、実際にご遺体を解剖させていただき、解
剖実習の重要性を深く実感しました。例えば、教科書に書かれていないよ
うな細かい部分や、人それぞれ血管の分布や分岐などが違い、教科書通り
の人などいないということは、解剖実習を行わなければ学ぶことはできま
せんでした。また、座学では体感することのできない、立体的な関係も、
自ら体を動かすことで学ぶことができました。これらのことは、将来臨床
の現場に出る際に、必ず必要になることであり、それを早い段階で学ぶこ
とができたことに感謝するとともに、今後の学習にも生かしていきたいで
す。

今回の解剖実習では、学習面で成長させていただいたのはもちろん、医
師になるとはどういうことなのか、その自覚が芽生えました。これから、
良い医師になれるよう、精進していきたいと思えます。最後に、献体をし
てくださった方に、今一度深く感謝致します。

人体解剖実習を終えて

人体解剖実習は、医学部に入ってから少しずつ意識していた。医学部だからこそできる学習であり、生命の神秘、そして生死に向き合える数少ない重要な機会だからである。しかし、近づくにつれて、自分のような未熟な人間が献体してくださった方の意思、期待に応えることができるか、と不安になっていった。

しかし、遺体と初めて対面したとき、献体してくださった方の長い人生に思いをはせ、一生懸命に取り組むことが自分にできる最大の恩返しだと感じた。実習が進むにつれ、想像以上に複雑な人体の構造に驚くとともに、これから一生この非常に難解な学問に対峙していかなければならないということを強く感じた。

最後に、献体してくださった方とそこへご遺族の方々、献体の会の会員の方々のご協力のもとに私たちが人体解剖実習を行っていることに非常に感謝いたします。この経験を生かして、一人でも多くの人を救えるような医師になりたいと強く思っております。

命に向き合うということ

解剖学実習の初めには、皆で黙祷を捧げます。もちろん毎回の黙祷は真摯なものでしたが、特に初めてご遺体を前にして黙祷を捧げたときには、献体していただいた実際のご遺体に向き合うことが強く意識され、かなり張り詰めた雰囲気になりました。その緊張感に、医学を学び医師となること、人の命との関わりを職とすることの責任を思い知らされました。教養部で過ごした昨年の一年間にも、医学生として、他の学部と同輩以上には、命について考え、向き合ってきたつもりでしたが、実習でご遺体に接して初めて、人間に命のあること、またその体の持つ意味を、肌で感じることができたように思います。

中学生の頃、私は祖母を亡くしました。死後なお暖かい体に触れると、未だ命あるように、またその体は祖母の存在そのものであるように感じられたことを記憶しています。そのお体の提供に、大切な家族の死を前にご理解を示してくださったご家族の皆様には、心より感謝しております。また何より、献体の意志を示してくださったご本人に深く感謝いたしますとともに、その期待に応え、医師として一人でも多くの患者に資することができるよう、努力してまいります。

解剖という経験

解剖学実習はまだほとんど座学しか行ったことのない学生にとって初めて人にメスを入れる実学の時間である。当然既にお亡くなりになられた方ではあるが、一人の人を解剖させていただくことの裏側にはたくさんの方が関わっているということを知った。献体してくださった方はもちろん、そのご家族の方々は大変なお悩みになったと思う。自分で調べてみてわかったことだが、長い防腐作業期間、実習期間、解剖待ち時間のために一年から二年ほど遺骨が戻ってこないことがあるという。そういったことまで考慮したうえで決断をしなければならぬご家族の方々には大きなご負担があったと察すると同時に、この解剖学実習には、座学や人体模型では得ることのできない、ただ単に「人体の構造を学ぶ」ということ以上の意味をはらんでいるのだと実感することになった。このことは少なからず将来のキャリアで生きてくることになるのではないかと考えている。貴重な経験をさせていただいたことに深い感謝を申し上げる。

解剖学実習を振り返って

約三カ月ほどの解剖学実習は、振り返ってみると長かったようにも短かったようにも思いますが、とにかくこの実習を通じて得られたものは非常に多かったと感じます。

解剖学実習をする前とした後とを比べてみると、まず何より人体の構造に関する理解が大きく変わりました。骨、筋肉、内臓、血管などといったものが、人体の中にどのような位置関係で、どのような形で、どのような大きさで存在しているのかということは、実習前にはただ教科書に載っている図から想像するしかありませんでした。しかし実習が終わった今では、実際に自らの手で解剖を行い、自らの目で確認したことで、実際にはどうなっているのかということがより鮮明になりました。また、教科書では単純化されて描かれているものの、実際には複雑な構造になっている部分も多く、人体の複雑さに驚かされると共に、座学だけでは決して得られない経験ができたと感じています。

このような貴重な機会を得られたのは、献体に協力してくださった方々のおかげです。本当にありがとうございます。この実習で学んだことや感じたことを忘れることなく、今後も勉学に励んでいこうと思います。

解剖実習感想文

この度、人体解剖実習という貴重な経験を体験させていただき、誠に感謝しております。献体してくださった方ならびにご遺族の方、そして献体の会の会員の方に心から御礼申し上げます。

東京医科歯科大学においては、一年生ときは主に教養について学び、二年生からようやく基礎医学について勉強する形になっています。その基礎医学において、一番大事なのはやはり人体解剖学だと思います。人体解剖学では、人間の構造を皮膚、筋肉、神経、動脈、静脈、臓器などについて系統的に勉強することができました。そして、人体解剖学の実習において、実際になかなか見れない各々の構造を確認できました。人体解剖学実習がなければ、医学の勉強は成り立ってないと言っても過言ではないと思います。つまり、献体してくださった方、献体してくださった方を支えているご遺族の方や献体の会の会員の方がいなければ、医学の教育が成り立っていないと思います。

したがって、献体してくださった方ならびにご遺族の方、そして献体の会の会員の方に尊敬と感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございます。

解剖実習を終えて

まず第一に、私達医学部の学生が解剖実習を執り行うに当たってお世話になりました全ての関係者の方々に感謝の意を表明させていただきたいと思います。ありがとうございました。何よりも我々医学生の学習の為に献体をしてくださった方々の存在によって私たちは医師になるための大きなはじめの一步を踏み出せたと感じています。またこうした貴重な機会の為に協力していただき私たちを導いてくれた教職員の方々の存在も欠かすことはできないものでした。今回の経験をこれからの全ての医学部の学習における礎とさせていただきたいと思います。

人体を解剖するという経験はそう多くの人ができるものではありません。そのような経験をさせていただける、しなくてはならない、そんな医学部にいて、これから医者になっていくという立場がどのようなものなのか改めて考えさせられました。将来人の命に対し責任を持って向き合っていく必要がある立場となるためにも今回の経験はとても重要であると感じました。

解剖をとおして感じたこと

私は人体解剖学を通して、確かに神経や筋肉などの人体の構造を学ぶ面も多かったと思いますが、それ以上に自らの医師になることへの自覚や、医師としての倫理観などが身についたと考えています。やはり、教科書で学ぶのと実際に構造を目の当たりにするのでは、理解度も違いましたし、このような貴重な機会を私たちに与えてくださった、献体してくださった方々、そしてそのご遺族の方々には感謝してもしきれません。解剖は他学部では経験できない医学部（または歯学部）に特別な経験であることから、医師としての自覚を強め、今後の医学学習に厳かな気持ちで取り組みたいと思います。また、今の自分があるのは、自分だけの学習の成果だけではなく、献体してくださった方々のおかげでもあることを深く理解し、その感謝の気持ちを忘れることなく医師になっていこうと思います。

最後に、私は率直に感じたこととして、解剖はいうなれば一つの命が終わりを迎えたとき、それを次世代の医療の発展、そしてそれが新たな命を救うことにつながるといふ神聖な営みであると思いました。その機会をいただけたことは非常に光栄で、ありがたいことだと思っています。

解剖実習を終えて

私は医学生として解剖学の授業に際し、ご遺体を解剖するという貴重な経験をさせていただきました。解剖させていただくのは当然、私自身初めての体験でして、解剖の授業がいよいよ始まるというときには、大変緊張したのを覚えています。毎回の授業の最初に黙祷をするのですが、その度に最初の授業のときの初心にかえっていました。解剖をさせていただくうちに、教科書などで見ただけではわからないことが、実際に手を動かすうちにわかるようになりました。教科書では分かりやすいように、平均化して描かれていますが、実際のご遺体はそれぞれがそれぞれに変異があつて、一人一人異なるのだということを実感しました。

このようなことを学べたのも、ひとえに献体してくださった方のおかげですし、そうした方々のご協力があつてこそ、私たちは医学生として医学を学ぶことができるのだと思います。まだまだ未熟な医学生ではありますが、将来医師になって社会に還元できるように精進していきたいと思えます。

解剖学実習を終えて

私は人間の身体そのものに対する興味から医学を志しました。人間の身体がどのようなつくりをしていて、どのように動くかを学ぶことは医学の基礎として重要であるというのは当然のことだと思います。しかしそれ以上に、純粹に人間の身体について知りたいという思いが強かったため、私は解剖学実習をとっても楽しみにしていました。

思っていたより大変な実習でしたが、実際に終えて振り返ってみると、教科書や講義資料で見る人体のさまざまなイラストや説明は時として実感に欠けるのに対し、生で見る「生きていた人の身体」は有無を言わせぬ説得力と一度見たら忘れない強い印象がありました。初めての解剖で、至らないながらも自分の手で様々な構造を剖出し、自分の目で見て理解した経験は医学生としての自分にとってかけがえのない財産になったと思います。

このような経験ができたのは、私達医学生のためにご自身の身体を提供するという決断を下さった方々及びそれに賛同して下さった御遺族の方々のご厚意故であり、その御心に深く感謝申し上げます。多くの方に支えられ、未来の医療に貢献することを期待された医学生としての責任を全うすべく日々学業に専心する所存です。

解剖実習を終えて

わたしが医師になることをこころざし、医学部を目指すようになったのは今からおよそ三年前である。医学的な知識はまるでなかったが体内の中で行われている生命維持のシステムに感動していた。

医学部に入学して二年目の今年、本格的に医学の勉強をするようになり同時に解剖の実習が始まった。人体について勉強をすればするほどその構造や精巧なメカニズムに魅了された。また解剖実習が献体をしてくださった方によって成り立っていることを知った。実際に解剖実習が始まって一番驚いたのは、それまで一般論として学んでいた人体の構造とは違うことが多々あるということだった。机上で学んでいたことは基本であり大切なことであるが、それが全ての人に当てはまるわけではない。机で学ぶことに手いっぱいになっていたことに気づかされた。

解剖実習を終えてさらに人体について興味が増した。医学を学び始めたばかりでも多くの経験や学びや発見があった。これから肉眼解剖学だけでなく幅広い分野を学んだ上でまた実習ができたならさらに成長できるように思う。献体をしてくださった方に感謝の気持ちを忘れず将来医学に貢献したいと強く感じている。

非日常的な体験を終えて

まず献体してくださった方に感謝の意を述べさせて頂きたいと思います。献体してくださった方のご協力のおかげで、私たちは遺体の解剖という貴重な経験を得ることができました。

日常では生きた人間としか触れ合うことがない中での死者との触れ合いは、私たちが遠くない未来、命と向き合う役割を担うことを実感させてくれました。まだ先が長く未知の部分の多い医学部の生活ですが、医学部の生活を通してこれ以上に自分の意識を変革する経験はないであろうという確信に近いものがあります。座学や教科書で得た理論上の知識は個体差や立体的な配置を考慮した実用的なものへと置換され、自らの糧となりました。勿論一度で全て理解できたという訳ではありませんが、何物にも替えがたいものだったという想いは強まるばかりです。

人の記憶は薄れゆくものですが、本気で心を打つ出来事は長く胸に残るものでしょう。今後学んでいく様々な分野の基盤として、医師としての第一歩として、ここで得た経験は決して風化させないことを誓います。

解剖学実習を終えて

まず献体してくださった方、ご家族の方に深く感謝を申し上げます。今回実習を通して、私は人体の構造を深く学ぶことができました。教科書通りではないことが多く、構造が画一的でないことを改めて認識しました。また紙面上では理解できない立体的な配置等も知ることができ、非常にためになりました。

ご遺体にメスを入れることは緊張感が伴い、確認するべき部分を壊してはいけないと思うあまり解剖を進めることが難しいと感じることも多くありました。しかし、ほかの班員と相談したり、先生方に助言をもらったりすることで理解を深め、徐々に進めることができました。

実際にご遺体に触れられる解剖実習の経験は非常に貴重であることを実感しました。また、命の貴重さ、大切さを改めて感じました。今後医師として働くにあたって、この三ヶ月を通して学んだことをしっかりと活かしていきたいです。立派な医師となることで恩返ししていきたいです。本当にありがとうございます。

今回の実習を通じて

ご自身の身体を私たち学生のために提供して下さった故人の方々、本当にありがとうございます。また、そのご遺族の方々のご協力にも感謝申し上げます。

献体とは、本人の意思で、死後に自分の遺体を医学の教育・研究用に無償で提供することを意味するそうです。私には家族や友人がいます。しかし、その人たちにさえ何か自分を犠牲にしてまで無償で何かをするという勇氣、潔さ、器の大きさを私は持ち合わせていません。にも関わらず、知らないどこかの二十歳の学生のため、医学という掟えどころのない大きな何かのためにご自身の体をささげてくださいる故人の方には、畏敬の念を抱かざるを得ません。

はじめてご遺体と対面した時は、人間の重みというものを感じ取り、圧倒され戸惑いながらスタートになりましたが、徐々に解剖を進めていくうちに、ご遺体の生前に思いをはせ、まるで何か対話をしているような心地になりました。人間の体という私たちにとっては未知であり、この自然界にとっても神秘的であるものを、ご遺体は丁寧にやさしく教え諭しているようでした。自分たちも懸命にそれにこたえようと懸命に取り組み、非常に充実した時間にできたことを改めて感謝致します。

解剖学実習を通して学んだこと

この度は人体解剖学実習という貴重な経験をさせてくださり、誠にありがとうございました。この機会をくださった献体していただいた方をはじめ、ご遺族の方々、献体の会の会員様に心より感謝申し上げます。

初めのうち、私は解剖実習の意義を正しく認識していませんでした。自分の手でご遺体を解剖しても観察したいものが正しく見ることができるとは限らず、解剖実習よりも座学で人体の構造を学んだ方が効率的なのではないかと思っていました。しかし実習が進むにつれ、その考えは変わってきました。座学では人体の一般的な構造を知識的に学ぶことしかできませんが、自分の手でご遺体を解剖することで実際の人体がどのようなになっているのか、人によってどのように体内の構造に違いがあるのかなどを学ぶことができることを知りました。

自らの手で人の体の中を開けて観察することは解剖実習でしか経験できないことですが、それでも人の体を診る医師になるには必要な経験です。そのような貴重な経験を活かしていくためにも、今後一層勉学に励み立派な医師となれるよう取り組んでいきたい所存です。

人体解剖学実習を振り返って

私たちの人体解剖学実習は五月から始まりました。解剖実習を始める前に、どのような雰囲気で行われるのかを知りたくなり、部活の先輩方に話を聞いてみました。すると、初めは緊張するけれども、献体してくださった方への感謝を忘れずに丁寧に取り組めば大丈夫だと伝えられました。先輩方も初めは緊張しながらご遺体を解剖したのだろうかと思像し、それは医学部歯学部々に代々続く、ひとつの伝統であることを認識しました。

そして迎えた実習初日、教室全体が神秘的な空気に包まれているのを感じながらグリーンシートを剥がしました。初めはご遺体がある場にあることに圧倒されるばかりでしたが、解剖を進めていくにつれて、筋肉や脈管系、神経などの複雑な走行と位置関係を実際に目にして驚くと共に感動しました。各部が何であるかを考えながら、全体を把握していく毎回の解剖は非常に興味深いと感じました。

ご献体していただかなければ、このような貴重な経験を積むことは決してできませんでした。献体してくださった方やご家族の方に、心からお礼を申し上げます。

解剖学実習を終えて

二年生になって専門科目を学び始め、最初の実習がこの解剖学実習でした。未熟な自分でもしっかりと解剖できるのだろうかという不安、緊張、様々な思いを胸に臨んだ解剖学実習初回はおそらく一生忘れないだろうと思います。

実習を進めるうちに分かってきたことは、人の身体は教科書通りではないということでした。教科書や模型はあくまでも標準的なあるパターンを表したものに過ぎず、実際のご遺体では、筋の走行から大動脈の分岐の仕方まで、大小様々な変異を見ることが出来ました。そういった変異を目の当たりにするたびに、その発生や機能にまで思いを馳せ、班員や他班の間と議論を交わして理解を深められたことは大変貴重な経験でした。教科書で知識をつけることももちろん大切ですが、知識をつけた上で実際にご遺体を見て学ぶことの意義は計り知れないと実感しました。

最後になりましたが、我々医学生に貴重な解剖学実習の機会を与えてくださった、ご献体の方ならびに御遺族の方々、本当にありがとうございます。これから初心を忘れず精進し、立派な医師になることで少しでも恩返しできたらと思います。

解剖を経て医学生としての責任を思う

五月の連休明けに、解剖実習が始まりました。事前に様々な説明は受けてはいましたが、実際に初めて遺体と対面したとき、体中を緊張が走りました。献体してくださった方にも、それぞれの人生があり、最期の生き方として献体という選択肢をとっていただいたこと、その結果として私たちが医学生は解剖実習をさせていただいているということのありがたさを実感しました。遺体を解剖させていただく中で、少なくとも初学者の自分にとっては毎回新しく刺激的な学びがありました。

私たちが医学を学ぶにあたっては、献体してくださる方や研修中に診させていただく患者の方々など、一般の方々の協力が必要不可欠です。それを当たり前のことと思わずに、そこで得られた成果を、一人前の医師となつて社会に還元していけるように精進していきたいと思っています。

解剖実習は、医学生として私たちが向けられている期待、そして背負っている責任を改めて実感する機会となりました。

解剖学実習を終えて

まず、献体をしてくださった方々、ご遺族の方々に深く感謝申し上げます。

初めてご遺体を目にした時には、これまで生きていた人間を解剖することと恐れと不安を感じました。回を重ねても、そのご遺体の命の重みを感じながら真剣に実習に臨んでいました。毎回の黙祷時には、献体してくださった方にいつも「ありがとうございます。立派な医師になるために、今日もしっかりと剖出させて頂きます。」と語りかけていました。そして予習をしっかりと授業に臨み、決して遺体を雑に解剖しないようにしました。

ご遺体を実際に解剖していくことで、それぞれの臓器や筋肉の位置関係が、座学とは比べものにならないくらいすっと頭に入ってきました。それぞれのご遺体によって個体差もあり、それも非常に勉強になりました。

解剖実習を終えて、自分も、将来献体をしようかと考えるようになりました。未来の医学生のために自分の身体を使ってもらえるのなら、それは非常に意味のあることではないかと思っただけからです。

これからこの実習の経験を活かし、より良い医師になるために精進していこうと思います。本当にありがとうございました。

解剖学実習を終えて残ったもの

解剖学実習、私にとってそれはまるで嵐のように過ぎ去っていったものでした。「人体の構造」というものは非常に精緻極まりないので、実習ではただただ息をのむばかりでした。どんな細かな神経にも血管にもそれぞれの役割があり、失われてしまえば様々な不都合が起こりうるのです。

私には、解剖学実習中、つい忘れてしまつてはハツと思い出して、と繰り返していた「あること」があります。それは「自分もヒトである」ということです。解剖操作を行う自分の手もまた、様々な筋や神経によって複雑に支配され、メスやピンセットを握ることができている。それは、今後、解剖を終えた後の人生を通じて一番近くで感じうる「人体」であり、だからこそ忘れてしまいがちなことです。「医者の不養生」とよく言われますが、人間を診る自分もまた人間なのだ、と意識し続けることが、真摯で謙虚な医療人としての在り方を支えるのだと思います。

解剖学実習を人工のシミュレーション教材に置き換えようという意見があるそうです。しかし、それでは「人間」という存在に真摯に向き合う土台を涵養するのは難しいと感じます。今は、献体してくださった方に感謝するばかりです。

人と人がつながる、ということ

解剖学実習を終えて、改めて献体してくださった方、そしてご家族の方に感謝の意を申し上げます。献体してくださった方にとって、献体の会の会員として登録するという決断をすることはそう簡単にできるものではないと思います。みなさまが医学の発展を想い、熟考の末に登録していただけたことに対して頭の下がる思いです。また御家族の方としては、御自分の身内が献体の会に登録したことについて胸中複雑な感情もあったかと存じます。その上で献体してくださった方の意思を尊重し、その存在を学校に預けてくださった姿勢に深く感謝いたします。

献体してくださった方のご遺体を解剖して学生は医学を学び、医師免許を取って社会に出て働き多くの人と関わる、その点において人と人はつながっていると感じます。医師になるうえで解剖は皆絶対に経験することではありますが、その過程では献体してくださった方、そしてそのご家族の方がいらつしやることを忘れてはならないと思っています。献体してくださった方とご家族の方に感謝するとともに、学ばせていただいたことを胸に医学を学び恥ずかしくないような人間になれるよう精進してまいります。

解剖実習を終えて

はじめに、献体してくださった方に感謝申し上げます。

医学科二年生では人体の正常な構造を学ぶために、解剖実習などの実習や講義が行われます。私にとって、解剖実習は非常に有意義な実習となりました。はじめは、予習をして、体の構造を頭に入れて、そして、覚えた構造を遺体で確認するという、一見つまらないものであるように感じられましたが、解剖実習が進んでいくうちに、解剖実習の時間が楽しみになっていきました。授業や教科書で確認した構造が、実際の遺体で確認できたときは、素直に、嬉しさを感じ、その構造が深部にあったり、小さかったりして難しいものであったときは、嬉しさはひとしおで、その感情は、大々学に行く意欲とさえ、なっていました。このように、私は解剖実習を、楽しみながら、かつ、興味深く、行うことができたと思います。

このような非常に貴重で有意義な時間にくださった、献体してくださった方に、再度お礼を申し上げます。

解剖実習を終えて

まず始めに我々医学生 of 学びのために自身のご遺体を提供する決意をしてくださった方々に深く感謝したいと思います。解剖実習は体内の構造を深く理解し、肌で感じる大変貴重な機会で、これから医師になる者として欠かせない経験となりました。

約二ヶ月間に渡る解剖実習で僕が学んだのは人体の複雑さ、そして脆さです。個性的な形を持つ臓器達、分岐と吻合を繰り返しながら体の隅々まで血液を循環させている血管、そして蜘蛛の巣のように体を覆う神経。これら全てを剖出するのは容易ではなく、人体がいかに複雑な仕組みによって制御されているかを思い知り、その機械のような精密さに魅了されました。足や手先を制御する骨の構造や聴覚を担う耳小骨の小ささに感動したのを覚えております。

解剖実習を通じて人体は機械のように頑丈ではなく、脆いということも実感しました。メスで少し触れただけで血管は傷ついてしまい、神経は下手すれば切れてしまう。教科書には表現されていなかった人体の繊細さを前に、自分が医師として人の体を扱うことがどんなに困難ことかを再認識した気がします。

献体してくださった方々、ご遺族の方々、本当にありがとうございます。ありがとうございました。

医師になる重要な段階としての解剖実習

解剖実習はまさしく自分の価値観を変える大きな体験でした。入学以前から、人の体に入メスを入れるという本来ならするはずのない行為は、医師になる上で重要な段階であると認識はしていましたが、やはりあまりに自分の今までの経験からはかけ離れたものであり、漠然とした不安がありました。いざ実習が始まってみて、自分の解剖する遺体と向き合った時の緊張感は忘れられません。

実習を進めていくうちにどんどんと実感することになった人体の仕組みの複雑さは理解が難しい部分でもありましたが、自分がここに存在できる不思議さ、命というものの繊細さ、重要性といったものを、改めて考えさせられる時間を与えてくれました。やはり解剖することではか得られないこの根本的な疑問・感動は今後の学習を進めるにおいて、重要な基礎であり大きな意欲の源として私を医師に導いてくれるものであると思います。

長い実習を乗り越えていくにつれ、人体そのものの尊さと同時に、私たち学生にこんなに素晴らしい解剖の機会を与えようと献体を決断してくださった方々への深い感謝を感じずにはいられませんでした。今後この学びを生かし頑張っていきたいと思います。

感謝の気持ち

献体してくださった方、ご遺族の皆様、私たち医学生に人体解剖実習の機会を与えてくださり、本当にありがとうございます。ご遺族の気持ちをお察しすると胸がいっぱいになり、誠心誠意一生懸命解剖に取り組もうと日々感じて勉強をしてまいりました。

実習以外の時間では、教科書や授業のスライドを用いて勉強を進めていますが、直接自分の目で見ることは、何にもかえがたい貴重な経験になりました。紙面とは異なることはもちろん、実際に自分の手で触れて目で見たいものは、一生忘れないと思います。

今後、私たちは医師になるために勉強を進め、その後患者さんの診察や手術をすることになります。私たちの人体解剖実習のために献体してくださった方、またこれまでの研究の中で献体してくださった方、そして遺族の方々のおかげで知識が積みあがっていくことを胸に刻み、日々精進し、立派な医師になりたいと思います。

解剖実習を通し学んだこと

解剖実習初日、初めて本物の遺体を目の当たりにして自分は少し硬直してしまいました。しかし、こんなようではこれから先の医師としての人生が思いやられるし、なにより怖気付いて中途半端な解剖をするようでは献体をしてくださった方に対し申し訳ないと感じました。そして、初めての黙祷では献体をしてくださった方、その遺族の方々に心の中でしっかりと感謝の弁を述べて解剖実習に臨みました。

実習をしていくにつれて、細かな道具の扱いや人間の体にメスを入れるという感覚に慣れていき、実際の体の中は教科書と全く違うのだということを実感を伴って理解しました。しかし、何よりも自分にとってこの実習は初めて、本物の医学の片鱗に触れたように感じました。教室で講義を聞いたり、テストのために勉強することとは明らかに違うものでありました。それは、ともに解剖をした班員とのコミュニケーションや、ときに力仕事が続いたり遅くまで長引く事があっても集中力を切らさない精神力など、座学では学べないが、将来的に必要ななるものです。

この実習で得た経験を基にこれからの医学の勉強に励んでいこうと思います。

解剖学実習を終えて

まず献体してくださった方に感謝の意を表したいと思います。

医学部に入ってから勉強というのは、教科書的に載っている文章を一生懸命先生の解説を聞いて理解して、そして暗記するというものが多いなと感じています。そうしたなかで、実際に自分の手を動かして自分の目で見て自分の頭で理解するという今回の実習で、他とは比べられないほどの経験、刺激を得ることができました。

暗記に偏りがちな座学の授業では、どうしても知識の海に溺れがちです。確かに、それも医師になるのに必要な一面ではありますが、ともすれば、自分はなぜ医師になりたいのか、どのような医師になりたいのかといった、重要な問いから離れてしまうことにもなりかねません。遺体を解剖する、という経験を通して、自分に向き合い続ける実習期間でもあったと今振り返って思います。実際のヒトの体の中を見ることで、個体差があること、教科書に載っていない血管や神経があること、実際の体の中は教科書の図の色使いとは全く異なることなど、当たり前のことではありますが、大きな衝撃を受けました。これからの勉強においても、今回の実習は大きな足跡になると感じています。

解剖実習を終えて感じたこと

まずはじめに、この度私達医学生のために献体してくださった方々、誠にありがとうございました。初めて実習室に入り、御遺体を目の前にした時の緊張感は、今でも忘れません。

解剖実習をする前は、細部まで描写された図解や優れたコンピュータシミュレーター等がある現代において、わざわざ解剖をしてもそれほど得るものはないのではないかと考えていました。しかし、解剖を進めるにつれて、血管の分岐の仕方や神経の分岐、吻合の様子が普段使っている教科書と異なることが多々あり、実際の人体から学ぶことの多さ、大切さを身をもって感じました。「教科書に載っていることが常に正しいとは限らない」を実感する、よい経験となりました。実際の患者をみるに当たって、個人差と異常を見分けなければならぬため、今回の経験は、今後医師として働く際に非常に役立つと思います。

未来の医師を育てるため、医学の進歩のために、解剖が重要であるということを改めて感じました。この度の解剖で学んだこと、解剖での経験を活かして、社会に貢献できる医師になろうと思っております。御遺体を提供して下さった方々、周囲の方々、本当にありがとうございました。

解剖実習を通じて

解剖実習を通じて、わたしは人体の構造について理解を深めることができたほか、「人」と向き合うことの責任の重大さを実感したように思います。初めて解剖室に入り、ご遺体と向き合った時のことは忘れることができません。これから医師になる者は誰もが経験する解剖ですが、未熟で経験も浅いわたしにとって、すでに息を引き取られた方と対面することは初めての体験です。部屋には普段感じたことのない緊張感にあふれていました。この瞬間に、多くの学生が、医療従事者になるに当たったの精神を理解したように思います。

解剖実習も回数を重ねるにつれて感じたのは、体の細部の作りは人によってそれぞれ異なり、教科書通りの構造は決して存在しないということです。人の顔はそれぞれ異なるように、神経の配置、血管の走行などには個性がありました。個人個人に対応した医療の大切さを実感しました。

最後に、献体をしてくださった方、そのご遺族の方に感謝の意を申し上げます。ありがとうございます。

解剖実習を終えて

まず初めに、献体してくださった方々ならびにご遺族の方々、このような実習という貴重な経験をさせていただき、本当にありがとうございました。

私は医学部に入学した当初から、この実習を意識しておりました。初回の実習前に大変緊張したこと、よく覚えております。今回その実習を無事に終えることができて、感じたことを書かせていただきます。

実習を通して最も強く感じたのは、人体の構造は大変多様性に富んでいるということでした。ご遺体を解剖させていただき、実際の身体は教科書の図とは異なる点が多いのだということ、また人により大きな違いがあるのだということを実感することができました。

また、将来医師として働くことの責任も強く感じました。医師として相対する患者さんは皆もちろん生身の身体です。その体に何らかの介入を行う者として、半端な理解で臨むわけにはいかないと、今後の学習に向けて身が引き締まる思いが致しました。

解剖実習を通して感じたこれらのことを活かし、より一層努力していきたいと思います。ありがとうございました。

解剖実習を終えて

本文をはじめるにあたって、まずは座学では決して学べない複雑なからだの仕組みを私たちに教えてくださるために献体していただいた方々、またそのご遺族に感謝の意を表します。今までと比べ物にならないくらい成長できた三か月でした。

実習初日、解剖とはどんなものなのか少しの不安をもって黙祷をし、はじめてご遺体と対面することになりました。その瞬間献体してくださった方の方の意志をくみ、しっかりと医学生として知識をつけ成長しなければならぬと身が引き締まる思いを感じました。実習の進め方としては午前中に授業でその範囲の大切なところを教えてもらい、実習でそれを確認しつつ複雑な構造を見て学んでいく形でした。授業の内容が解剖実習を通して現実のものとして深く理解できてとても良かったです。しかし、人間の構造というのは複雑で時には教科書通り、授業通りでは全くないこともあります。それもからだの構造の神秘を物語っているようで興味深かったです。このような体験をさせていただいたすべての人への感謝を忘れず、解剖実習で学んだことを将来の医師としての貢献に生かしていきたいと深く心に刻みます。

三か月で異次元の成長

まず初めに、この度我々学生の成長を願い献体して下さった方々に深く感謝の意を表したいと思います。技術が発展する中で、実際の解剖以外の解剖学の学び方は出てきましたが、やはり五感で生と死を学べるのが一番よく、それには献体してくださる方が不可欠です。

我々医学科二年生は四月の一月は発生学で人の構造がいかになりたつていくかを座学で学びました。そこから解剖を始めたのですが、教科書の図からはとても想像できない全体の体の構造、内臓など中の構造がわかり、医学生として圧倒的な成長をさせていただいたと感じております。たとえば、外見からは腹筋しか見えない腹部にも大まかに言っても皮膚、筋肉、何層もの腹膜、大網そしてやつと内臓と信じられないほど複雑な構造が互いにうまく重なり合ってヒトを形成しているということに気づかされました。この全体の理解はかならず医師として患者さんと向き合うときに役に立つと思います。

最後になりますが、今一度献体して下さった方、並びにそのご遺族に感謝申し上げます。

人体解剖学実習を終えて

約三か月にわたる解剖実習を通し、私は医学生として大切なことをいくつも学べたと感じています。

まず、命の重み、医療として生命を扱うことの責任を、改めて心に刻むことができました。毎回の実習の初めに、私たちは全員で黙祷を行います。目を閉じ、献体してくださった方に静かに思いをはせることで、緊張感を保ち、ご遺体への敬意と責任感を持って解剖実習にあたることができました。こういった心構えを、今後も医療に携わる者として常に抱いていきたいと思います。

また、実習は、仲間との協力を学ぶ場でもありました。人体の構造は非常に複雑で、一度にすべてを理解することはできません。実習では、班員と分担しながら作業を進め、わからないことがあれば他の学生と議論し合いました。そういった学生同士の協力、学び合いは、講義や教科書だけではなかなか身につかない貴重なものだと感じています。

解剖実習で学んだことは、将来も私たちの医師としての基盤となり、深く息づいていくことでしょう。献体してくださった方、ご家族への感謝の気持ちは計り知れません。本当にありがとうございました。

よりよい医療人になるために

今回の実習を通じて非常に多くの物事を学ばせていただいたが、その中でも印象に残ったのは本に書かれていることと現実とは大きな違いがあるということである。実習が始まる前までは人体の構造について本で勉強をすればそれで十分であると考えていたが、実際に献体してくださった方を目の当たりにするとそのような考えは非常に間違っていることを痛感させられた。多くの点について様々な違いが存在しており、本に書かれていることもただ一つの例に過ぎないことを思い知らされた。そのため、これから様々な医療知識を学んでいくことになるがその際に学んでいく物事も一例にすぎず、大事であることは苦しんでいる方々が実際どのようなことで苦しんでいるのかということに真摯に向き合うことであることを改めて再認識した。

今回の経験はこれからの人生において忘れることのできない出来事であり、今回の経験をもとにより良い医療人になるべく研鑽を積んでいきたいと思う。

解剖実習を終えて

感想に先立ちまして、私たち学生のためにご献体してくださった方、大変貴重な経験を有難うございました。

実習の初日に初めてご遺体を目にした時、不安と緊張を感じるとともに、この機会を大切に精一杯医学について学ぶ責任が自分にはあることを痛感致しました。

実習には教科書や実習資料を予習して臨みましたが、実際に解剖してみると、教科書と全く同じ構造はほとんどなく、人の身体は画一的でないことを実感しました。また、教科書では見ることのできない三次元構造を理解できたことで、構造上ある箇所での病変が違う箇所にも影響を及ぼすといったように、予習の段階でバラバラだった知識を結びつけることもできました。予復習に追われ、大変忙しい三ヶ月でしたが、今までの学習とは比べ物にならないほど、沢山のことを学ぶことができました。

これから更に医学を学び医者になるにあたって、実習で学ばせて頂いたことを忘れずに、精一杯精進していききたいと思います。

解剖学実習を終えて

はじめに、解剖実習という貴重な経験、学びができたことについて、献体してくださった方、そのご遺族の方々に感謝の意を表したいと思います。私がこのようなことを述べるのは恐縮ですが、医学は人の死の上に成り立ってきたという側面もあります。そういったことを理解し、献体して下さったことがとても有難いです。

実習においては、非常に多くのことを学ぶことができ、実り多いものとなりました。実際に解剖を行うことによって、教科書よりも詳細かつ包括的に理解ができ、個体による細かな違いがあり、それがどのようなところに現れやすいのかといったことも分かりました。やはり教科書を読んで学習するだけでは不足があるということを実感しました。これから勉強する際にも、実際に目で見ることによって分かることがあるのだということを忘れないようにしたいと思います。

また、ご遺体を解剖することを通して、メスなどの特別な器具を用いたこともあり、自分の中の、医師になるのだという意識がより確固たるものとなったように感じています。こうした気持ちを忘れることなく、これからの医学生としての時間を、勉学に励み有意義に過ごしていきたいと思えます。

解剖実習を通じて

解剖実習では、一班四人の医学生に対し一人のご遺体が割り当てられました。第一回の実習の際にご遺体を目の前にして、「お体をお借りして人の体について深く学ばせていただきます」と身の引き締まる気持ちでした。実習を通じて、普段自分でも動かしている体というものが教科書で見ると、自分で感じているもの以上に複雑な構造であると感じられ、非常に興味深く感動しました。筋肉や神経、その他様々な器官の位置や関係など、教科書や写真だけではわかりづらいことも実際に見て学ぶことができ、非常に貴重な体験をさせていただいたと感じています。

今後、私がさらに医学についての学習を進めていき臨床の場に立つたとき、さらに様々な方の体と向き合っていく場面が増えていきます。その際に、今回の解剖実習の経験や知識が活かされることが多くあると思います。献体してくださった方やご家族の方々への感謝を忘れず一医療者として活躍できるよう日々精進していきたいと考えています。

解剖を通して学ぶこと

初めてご遺体を迎えた日、確かな重みを持つて感じられる命の感覚に圧倒され、日々の実習に対して真摯に向き合うことがご献体に対する礼儀だと思いました。全てを終えて振り返るいま、教科書で学ぶ理論的な基礎知識と実際の人体構造をご遺体の解剖を通して照らし合わせる経験は、複雑な命のしくみ、その一端を理解する上で大変有意義なものであったと言えます。

実習のたびに、ご遺体の解剖を通して今までの知識が丸ごと塗り替えられるような衝撃を受けたことは鮮明に覚えています。解剖実習の意義は、実際の身体が教科書と寸分狂わない正確な構造を有するものでは決してないことを知り、パターンに彩られた人体構造のあり方を目で見て、手を動かして理解することにある。それはあらゆる臨床、医学研究の分野の基礎として確立されるものであって、座学に加え実習があつてはじめて成り立つものであると気づかされるのでした。

最後に、医療の発展を願い私達に献体してくださった方々には感謝の念が尽きません。この度の貴重な経験を生かし、成長を続ける医の世界に少しでも貢献できるよう、努力する所存です。

解剖実習を終えて

まず初めに、私たち学生のために献体してくださった方に今一度感謝いたします。

解剖実習を通して学ぶことはたくさんありましたが、特に「講義で学んだことを直接目で見て確認できたこと」と「医師になることへの自覚」の二つは、解剖実習を経験したからこそ得られる貴重なものだったと思います。

一つ目について、授業を聞いても理解が難しい構造や、実際には教科書と位置関係が異なる構造は多くあります。そのような場合に、遺体を解剖して直接確認することで、立体的な位置関係が理解でき、全ての人間が教科書通りにできているわけではないという事実を学ぶこともできました。二つ目について、人体解剖は医学生だからこそ行うとても貴重な経験です。一般の人は見ることでできないものばかりを見る解剖実習を通して、初めは衝撃的なこともあり、自分がそういった実習をさせていただいているという状況について考えさせられることがありました。その度に、自分は医師になるのだという自覚が今までよりも強く確実なものとして芽生えました。

この貴重な経験を活かし、社会に貢献できる医師になるためにこれからも努力してまいります。ありがとうございました。

解剖とわたし

今まで教養部で一年間幅広い分野を学んでいた私にとっては、二年生が始まって最初の解剖はすごく興味の持てる面白い実習だなと感じました。人体の構造について深く理解することが出来、献体してくださった方には感謝の念にたえません。解剖学においては様々な授業を通し、実際に解剖しなければわからないことばかりでしたし、外科手術等の将来関わるかもしれない実技を意識する良い経験でした。有意義な時間を過ごせたのではないかと思います。また、高校までのような将来にかかわらず全教科、教養の範囲を習わせようとするものではなく、将来に直結する医学や医療者としての認識を学ぶことができたので、解剖学を通じて、日々の研究や臨床に貢献していき、自分自身でも、自分の体を通じても医学に貢献できるのではないかと思います。今回は、非常に有意義な機会を設けていただき、ありがとうございます。生涯をかけて医学界、ひいては人々に返していきたいと思っています。

解剖実習を終えて

二年生になり、教養部から医学部に上がった自分は二か月半の解剖実習を通して、一大学生から医学生へと成長しました。これはひとえに献体しただけだった方のご協力の上に成り立つものであり、そうした方々に深い敬意と感謝をまず初めに表します。

初回の実習で献体してくださった方と対面し、ご遺体を用いて実習をしていく中で、座学だけでは学べない実際の人体の構造を学ぶというかけがえのない経験をすることができました。貴重なご協力の下に自分たちの実習が成り立っているという事を強く実感しました。当たり前ではありませんが医学は人間を相手にする学問であるという事を身をもって感じたとともにこの実習で得た学びを自らの骨肉として将来の患者さんへと還元しなければならぬと背筋が伸びる思いです。医学的な知識だけでなく、医師になる人間としての自覚がこの実習期間で心に刻まれました。

献体してくださった方のご協力で成り立ったこの実習は自分の医師としての原点であり、今後の医学を究める人生の中で決して忘れず、良い医師となるための糧としていきたいと思えます。

人体解剖学実習を終えて

まずはじめに、私たち医学生ひいては社会のために人体解剖学実習という貴重な経験を与えてくださった篤志の方々に厚くお礼申し上げます。

この三か月余りの実習を通じて私たちは画一的な教科書の記述とは異なる複雑で多様な人体の構造について学ぶことができました。また、座学では理解やイメージすることが難しかったことでも、実際にご遺体を解剖することで理解が深まることもありました。これらは献体をしてくださった方がいらっしゃったからこそ学べたことです。

さらに、実際に自らの手でご遺体を解剖していく過程においては、ひとりの人間の体を扱っているという緊張感が伴いました。将来医師として多くの患者の命を預かる身として、この経験はとても意義のあるものになると思います。

最後になりますが、今回献体してくださった篤志の方々に今一度感謝し、これからより一層勉学に励み、社会に貢献できるような医師になれるよう精進していきます。本当にありがとうございました。

人体解剖実習を終えて

まず初めに、献体して下さった方と、そのご家族の方々に感謝致します。私達に最高の学びの機会を授けて頂き、本当にありがとうございます。

解剖実習は毎回張り詰めた雰囲気で行われました。一番初めにご遺体と直面した時の衝撃ははつきりと覚えています。最初は顔を直視することが出来ませんでした。

教科書に載っている人体構造と、実際のご遺体では殆ど同じ点はありません。座学の授業で十分に予習をしても、毎実習ごとに様々な発見があり、全体を通して、非常に意義のある実習だったと思います。よく教科書で見られる、綺麗に整理されている人体構造はあまりあてにならないかったため、ご遺体を上手く解剖出来ない時もありましたが、人体は必ずしも教科書通りではないということを強く意識することが出来ました。

この先、更に勉学に励んでいく所存ですが、今回の解剖実習はかけがえない大きな意味を持つ経験となりました。この実習で学んだことを生かしていきたいと思っています。

解剖学実習を終えて

医学部と言うと、医学部のことをよく知らない人でも、解剖の実習があることは知っているのではないかと思います。私自身も医学部に入る前から、医学部に入ったら人体解剖をすることになるのだということを半ば当然のことにように思っていました。しかし、解剖実習の最初の授業で、そのような思いを改めました。自分たちが対面しているのは本物のご遺体なのだという事実の重さ、そしてご協力して下さる方がいらっしやって解剖が出来るのだということの有り難さを痛感しました。その思いの下、解剖実習を通じて少しでも多くのことを学べるようにできる限りの努力をしました。教科書の図を見て理解したつもりになったことでも、実際の人体で見ると自分が考えていたよりもずっと複雑なのだと感じさせられました。将来自分が医者として働く際には、生身の人間に対応しなければならぬため、とても良い勉強になったとともに、これからの勉強を頑張らなければならぬと感じました。

献体にご協力してくださった方には心からご冥福をお祈り致します。ご遺族の方々にも深く感謝致します。この経験を糧にして立派な医療従事者となり社会に貢献できるよう、精一杯努力する所存です。

解剖学実習を終えて

まず初めに、私たちが解剖実習を行うにあたり、献体してくださった方々とそのご遺族の方々に感謝の意を述べさせて頂きたいと思います。皆様のおかげで解剖実習という得難い経験をさせて頂き、人体の構造への理解がより一層深められ、医学の道をまた一歩進むことができました。

二か月以上前の初めての解剖学実習の日にはとても緊張していました。遺体のお顔を拝見した際には実際に一人の方が献体してくださったのだという実感が湧き、背筋の伸びる思いがしたとともに、これからの実習を実りのあるものにしようと強く決心しました。

実習がはじまってからは、慣れないことに戸惑いもありましたが、丁寧に解剖するように心がけていました。実物を見ないと知りえない体の内部の立体構造を知ることができたり、択一的に教科書通りの御遺体は一人としてないのだということを改めて感じることもできたりと、多くのことを学ぶことができました。

この実習を通して、二度と得られない経験をさせて頂けた感謝を噛みしめ、今後医師になる身としてそれを糧として活かしていきたいと強く感じました。これから自分の目指すべき医師へとさらに精進していこうと思います。

解剖実習を終えて

自分が解剖実習を終えて一番に実感したことは、自分が個別の人間に向き合う医療従事者になることを改めて確認できたということです。解剖実習を始める前の自分を思い返してみると、普通の大学生のように数学や英語の授業を受ける教養部に在籍し、あまり医療従事者という職業の特殊性や求められる心構えを意識することはなかったように感じます。また、第二学年に上がり人体に関する授業が始まって以降も教科書に載っている普遍的な“人体”についての知識を学ぶだけで、誰一人として同じ方はいない患者の方の命を預かる仕事に就くという意識はありませんでした。しかし解剖実習において献体してくださった方の遺体を解剖するなかで、実際の人体の構造は教科書通りでない部分も多いことを初めて体感したり、金歯や手術痕などを見て献体してくださった方々が治療を受けながら生活を送っていたことを身につまされたりし、自分が将来向き合うのは人それぞれ様々な背景をもって受診された患者の方であることを意識するようになりました。

このように自分が変わることが出来たのは解剖実習のおかげです。今回献体してくださった方ならびに遺族の方々、誠に有難うございました。

解剖実習を終えて

五月から始まった解剖実習はとても有意義なものでしたが、最初はお遺体にメスを立てるといふ行為に少し抵抗がありました。いくら実習とは言え、人の身体を傷つけることに対して申し訳なさを感じていたのです。実習の回数を重ねるごとに少しずつ慣れていきましたが、それでもなお申し訳ない気持ちは拭いきれませんでした。しかしながら、この「申し訳ない」という気持ちがあつたからこそ、各回の実習の内容を最大限吸収して大事にしていこうと強く決意することができたと思います。このような強い決意には、写真や教科書や模型による学習だけでは到底辿り着けなかったでしょう。そうした思いのもと実習を進めていくなかで、血管や神経の走行などの個人差がどれほど多いか痛感し、教科書学習では気が付けない人体の構造の奥深さを垣間見ることができました。

このような貴重な体験は、偏に献体してくださった方およびそのご遺族の方々のご理解とご協力があつたからこそのものだと思います。この場を借りて、献体してくださった方、ご遺族の方々に感謝の意を申し上げます。今回の実習で得た経験と知識を糧に、よい医師となるよう精進していきたいと思っています。

解剖実習を終えて

始めに、献体してくださった方々とそのご家族の方々に深く感謝申し上げます。大きな不安の中始まった解剖実習でしたが、私はこの三か月間の解剖実習を通して本当に貴重な体験をさせていただきました。

まず、授業前に毎回行う黙とうを通して命の重みを実感していました。献体してくださった方々のおかげで今こうして自分が実習を行うことができていることをはつきりと自覚し、感謝を込めて自分たちも真摯に学ばなくてはいけないという覚悟のもと実習に取り組んでいました。

次に、実際に自分の目で確認することの重要性を実感しました。図や授業を通して知識として知っていることと実際にこの目で見ることの違いに最初は驚かされました。一人ひとりが少しずつ違った構造をしていて、教科書は一般化したものにすぎないことを認識し「百聞は一見に如かず」という言葉を身に染みて感じました。

最後に、この実習に協力してくださった方々に再度御礼申し上げたいと思います。人の死と隣り合わせで実習を行う経験は本当に貴重なものであり、これからもこの気持ちと学んだことを忘れずにより熱心に勉学に向き合っていきたいと思います。

人体解剖学実習を終えて

五月から始まった、二ヶ月半に及ぶ解剖学実習も、終わりを迎えました。このような貴重な機会をいただいたことに、とても感謝しております。

この実習で、私たちは非常の多くのことを学ぶことができました。実際にご遺体を解剖すると、教科書に書かれたこととは全く異なる、様々な特徴が見られました。このことは、私たちが医師となった際に、患者さん一人一人のことをしっかりと見つめることが、いかに大切かを改めて認識させてくださいました。

このように、実際に人体に触れ、学ぶことは、当たり前前にできることはありません。献体をしてくださった方々、そしてそのご遺族の方々のご協力があつて、私たちは医師になるために非常に重要なことを、多く学ぶことができました。この感謝の気持ちを忘れずに、誠心誠意患者さんと向き合い、一生を通じて学び、その知識を人のために生かしていきたいと考えております。

改めて今回の実習にご協力いただいた皆様に、心より感謝申し上げます。

解剖実習を終えて

はじめに、非常に多くのことを学ぶ機会を作ってくださいました、献体してくださった方ならびに遺族の方に深く御礼を申し上げたいと思います。

私が実習を通じて驚いたことは、全くもって人体というものがマニュアルどおりではないということでした。百聞は一見に如かずというのはまさにこのことで、構造一つを取っても、その同定は容易でなく、必要以上に時間をかけてしまうということは常でした。この解剖実習でご遺体を解剖をするという経験をしていなければ、知識を知っているだけで、いざという時にその知識を生かせない、自ら手を動かすことができずに目の前の命を救うことができない医師になってしまったと思います。ただ同時に一度見た構造は教科書で見るとよりはるかに鮮明に強く記憶に焼き付けることができました。

このような貴重な機会をくださった献体してくださいました方、ご遺族の方に改めて感謝を述べたいと思います。そこには並々ならない思いと葛藤があったと推察します。その思いを無駄にしないために、そして今度は私が医師という形で社会に還元していくために、この経験を自らの糧として、より一層勉学に励んでいきたいと考えています。

これから更に精進いたします

解剖実習室に初めて入ったとき、そしてご遺体と向き合ったとき、ようやく医師になるための道のスタートラインに立ったことを強く感じた。そして自分が果たしてしっかり勉強できているのか、失礼のないよう解剖を進めることができるのか不安になった。

解剖実習で自分の勉強不足を痛感した。毎回実習で学ぶことを事前に確認し、しっかり予習していたと思っていたが、いざご遺体と向き合って解剖を進めると、なかなか思う通りにいかなかった。特に大動脈から出ていく枝の観察にあたり、教科書通りだと解剖したときに判断したが、後の講義において珍しい変異の一つであったと紹介されたことがあった。これだけ大きな血管に変異が生じているということに意識が及ばず、「教科書通り」と信じ込んでしまったことに自分の未熟さを感じた。

将来、医師になるにあたり、今回の経験から、より深い人体への理解が求められること、また一人ひとりにある個人差を意識することを常に念頭におき、これから良き医療人となるよう精進していきたい。

最後に、献体してくださった方、そしてそのご遺族の方など、このような貴重な機会を与えてくださった全ての方に感謝いたします。

解剖実習を終えて

私たち医学科二年生は五月から七月の三ヶ月をかけて人体解剖学の実習を行いました。献体してくださった方、その遺族の方々に深く感謝申し上げます。

この実習は人体解剖学の授業で学んだことを実際に自分の目で確かめることができ、非常に有意義なものでした。教科書を読んでも分からないこと、教科書には書かれていないことが実際に解剖を行うことでよく理解することが出来ました。教科書に書かれている図や位置構造が必ずしも正しいということではなく、人によって神経や血管の走行が異なるばかりでなく、同じ方の左右でも異なるということを実感しました。実際の神経の太さ、神経が身体中に走行している様子、内臓の色や形も非常に印象に残っています。

この実習を通して得たものをこれからの医学部での学習や後に医師になれてから活かしていきたいです。医学への意識もますます高まり、これからより一生懸命医学の勉強に励んでいかねばならないなと思いました。最後になりましたが、このような貴重な経験をさせて頂き、本当にありがとうございました。

人体解剖

私は今回の実習で、初めて人体を解剖しました。実際に生きていた人、実際にひとりの人間として人生を歩んできたであろう人を、目の前にして、なんとも名状しがたい緊張感を感じました。実習の中で、筋肉や脂肪の付き方、からだの大きさ、内臓の色や形、ひとりとして同じことではないということを実感しました。その特徴の中には、その人の生活を想起させるようなものもあり、時には解剖中、胸が痛む思いがしました。

しかしそれに加え、教科書通りの人間なんてひとりもないということを感じました。人は誰ひとりとして同じではなく、皆、等しく価値のある人間なのです。私はまだ二十歳になったところです。自分よりずっと長く生きていらっしゃった方から、人として大切な教訓を得た気がします。これからより一層他人を思いやることができると思いました。

もちろん、これから医師になる上で良い経験になったということは言うまでもありません。ひとりひとりの人間を命あるものとして敬うこと、そして丁寧に向き合うこと。医師として大事なことを学べたと思います。ご献体してくださった方には心より尊敬の念を抱くとともに、感謝させていただきます。ありがとうございました。

ご遺体を使った実習の意義

まず、御献体くださったことに感謝の意を示したいです。解剖学では人体の正常構造を教科書を用いて学び、その後の解剖学実習でご遺体を解剖します。第一回目の解剖の時の、グリーンシートを取ってメスを入れるときの緊張感は、今でも鮮明に覚えています。解剖をして実感したのが、やはり教科書を用いた学習と実際に自分の手でメスを執り解剖するのでは見えるものが違うということです。例えば、教科書では一通りでしか書かれていない血管の分岐も実際の御献体ではいくつかのパターンに分かれていてそれを分類することができます。教科書はすべての図に名前が書かれています。御献体はそのようなヒントが全くありません。それを一つ一つ同定していくという作業は、一番勉強になったと確信しています。

献体をするということは社会への最も崇高な貢献だと感じております。実習室の壁にある『The Ultimate Gift』の文言を見るたびに気持ちを引きしまりました。自分は今後さらに勉学に励み、優秀な医師になるということ。感謝の意を示したいと考えています。ありがとうございました。

解剖実習を終えて

初めてご遺体と対面したときの緊張感は、忘れることができません。気の引き締まる思いと、本格的な医学の学習が始まったばかりで知識も浅い私に本当にできるのだろうかという不安の入り混じった、初めて抱く感情でした。しかしそれは間もなく、献体してくださった方、またご遺族の方々のためにも、自分の出来る最大限の努力をし、一つでも多くのことを学んでいこうという思いに変わり、三ヶ月間、真剣に取り組んでまいりました。人体の構造を隅々まで観察し、本物の人体の精密な構造に、大きな感動を覚えました。深く勉強をすればするほど新たな発見があり、教科書でのみの学習では得られない、この実習でしか学ぶことのできないことばかりで、とても充実した時間でした。

医学の進歩と発展のために献体してくださった方、ご遺族の方に深く感謝申し上げます。この解剖実習を通して得ることのできた全ての知識、経験を礎として、立派な医師になれるよう、これからも勉学に励んでいきたいと思います。貴重な機会を与えてくださり、本当にありがとうございます。ありがとうございました。